

令和2年度

教育に関する事務の管理および執行の状況の
点検および評価等の報告書(令和元年度実績)

令和2年 12 月

米 原 市 教 育 委 員 会

目 次

1	点検および評価制度の概要	
(1)	背景	1
(2)	目的	1
(3)	対象事業の考え方	1
(4)	評価の方法	1
(5)	学識経験者の知見の活用	2
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員	3
(2)	教育委員会の活動状況	3
(ア)	教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ)	総合教育会議	4
(ウ)	その他の活動状況	4
(エ)	委員の就任状況	4
3	米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	
(1)	趣旨	5
(2)	学識経験者	5
(3)	懇話会	5
(4)	学識経験者による意見	7
4	事務の管理および執行状況の点検・評価	
(1)	施策の体系と事務事業一覧	12
(2)	点検および評価等の結果	14
	対象事業の評価一覧	15
	各事業の点検および評価等	
	教育総務課所管事業	17
	学校給食課所管事業	25
	学校教育課所管事業	28
	生涯学習課所管事業	36
	図書館所管事業	48
	歴史文化財保護課所管事業	50
	子育て支援課所管事業	53
	保育幼稚園課所管事業	55

(3) 学校等の評価

認定こども園運営委員・幼稚園評議員による園評価・・・・・・・・・・56

小・中学校運営協議会委員・学校評議員による園評価・・・・・・63

図書館内部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

(4) 米原市教育振興基本計画（目標指標）・・・・・・・・・・75

1 点検および評価制度の概要

(1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価(以下「点検および評価」という。)を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

(3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、令和元年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含む全ての事務が対象となります。

事業のまとめ方については、「米原市総合計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

(4) 評価の方法

評価の方法については、個々の事務事業について評価の目安となる成果指標が定まっていますが、評価について地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 233 条第 5 項の規定に基づく、令和元年度における主要施策の成果説明書(以下「主要施策の成果説明書」という。)の主要な施策の実績の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。また、平成 29 年 3 月に策定した「第 2 期米原市教育振興基本計画」における目標値に対する現状値も表記しています。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
教育長	山 本 太 一	H29. 8. 14～R2. 8. 13
教育長職務代理者	中 川 清 和	H29. 3. 28～R3. 3. 27
委 員	本 庄 通 子	H27. 3. 25～H31. 3. 24 H31. 3. 25～R5. 3. 24
委 員	近 藤 由 加 里	H28. 3. 25～R2. 3. 24
委 員	井 口 英 知	R2. 3. 25～R6. 3. 24
委 員	膽 吹 照 子	H29. 10. 1～R3. 9. 30
委 員	法 戸 繁 利	H30. 3. 25～R4. 3. 24

(2) 教育委員会の活動状況

(ア) 教育委員会議の開催および議決状況

月 日	定例・臨時 の別	議 決 事 項							協議 事項	報告 事項 ほか
		条例案	規則	訓令 要綱	委員等 任命・ 委嘱等	予算案	後援等 名義使 用	その他		
H31. 4. 22	定例		3		1	2	4			7
R 1. 5. 15	定例				2	1	3	1		3
R 1. 6. 26	定例			1	2		6			2
R 1. 7. 25	定例				1			3		2
R 1. 8. 17	定例	1				1		1		5
R 1. 9. 26	定例				2		2			4
R 1. 10. 23	定例		1		1					4
R 1. 11. 19	定例					1	1	4		2
R 1. 12. 19	定例						3	1		2
R 2. 1. 24	定例				1					6
R 2. 2. 12	定例	7			2	2	1	1		1
R 2. 3. 6	臨時							1		
R 2. 3. 19	定例		5				2	2		1 2
合 計	定例 12回 臨時 1回	8	9	1	1 2	6	2 2	1 3	0	5 0

(イ) 総合教育会議

平成 27 年 4 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成 27 年度から市長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を市長が設置するとともに、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することが義務付けられました。市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、市の教育の課題および目指す姿を共有しながら、連携して効果的な教育行政を推進するため総合教育会議を 1 回開催しました。

○令和元年 12 月 20 日（水）

- ・学校の先生の働き方改革について
- ・不登校・ひきこもりの実態について
- ・子どもの貧困対策（子どもの生活実態調査）の状況について

(ウ) その他の活動状況

○学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）

○各校入学式および各園入園式

○各校園運動会および体育祭

○その他各種行事

○研修等

- ・滋賀県都市教育委員会連絡協議会
（理事会・総会・研修会・意見交流会・教育長会議）
- ・滋賀県市町教育委員会研究協議会
- ・近畿都市教育長協議会（総会・研究協議会）
- ・全国都市教育長協議会（理事会・総会・研究会）
- ・米原市教育委員県外研修

(エ) 委員の就任状況

- ・米原市青少年育成市民会議
- ・米原市人権尊重のまちづくり審議会委員
- ・米原市民生委員推薦会委員
- ・米原市奨学金給付審査会委員

3 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

(2) 学識経験者

- 大橋松行(おおはし まつゆき)氏 滋賀県立大学名誉教授、市行財政改革市民会議座長
- 膽吹満利子(いぶき まりこ)氏 元市内小学校長、主任児童委員

(3) 懇話会

◆日 時 令和2年11月6日(金) 15時30分から17時30分まで

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、膽吹満利子氏

(教育委員) 中川清和、本庄通子、膽吹照子、法戸繁利

(教育長) 山本太一、(教育部長) 上村浩

(各所属長) こども未来部長：高畑、学校給食課：藤田、学校教育課：金澤、
生涯学習課：梶田、図書館：梶川、歴史文化財保護課：桂田、
子育て支援課：阿原、保育幼稚園課：小寺

(事務局) 教育総務課：口分田、花部、武藤

◆意見交換での主な意見

(全般)

- ・現在のA～Eの感覚的な指標では客観的な評価ができないため、数字で目標設定できるところは数値化をしてはどうか新型コロナウイルス感染症による影響があっても、数値化していれば理由が分かる。

(教育総務課)

- ・給付型奨学金制度について、申請数が伸びていない。高校生への周知に加え、中学3年生へも周知していくことが必要である。また、今年度から二次募集を実施しており、これは理にかなっている。
- ・スクールバスの運行については、獣害(熊)の問題に加え、上級生がおらず低学年だけで歩いて通学しているといった新たな問題が出てきており、「米原市内小中学校における通学に関する基本方針」を見直す必要がある。少子化により集団登下校が困難な地域が出てきており、集団登下校、保護者の送迎など登下校の在り方を考える必要がある。

(学校給食課)

- ・過年度分の収納率が前年度と比較すると、大幅に上昇しているおり、相当に努力され成果を出している。
- ・地場産物の活用率が昨年度と比較すると、非常に上昇しており努力の跡が顕著に見られるため、評価がAでもよいのではないかと。

(学校教育課)

- ・いじめ事案報告件数が前年度と比較して大幅に増えている。いじめの報告件数について、滋賀県の千人当たりの平均は 46 であった。米原市では、児童生徒数は 3,000 人ほどで、141 件の報告件数があり、だいたい平均のクラスである。
- ・学校経営予算制度について、前年度からの減額は人数割の影響と思われる。学校の裁量で、学校環境を整えていただくためにも、引き続き予算を確保いただきたい。

(生涯学習課)

- ・ニュージーランドのホストタウン事業でチームを招致し、監督も来て締結式を実施でき、米原市を元気づけることができた。全日本中学生ホッケー選手権大会も盛大に開催でき、地元のチームが頑張り、市のスポーツホッケーは県にとどろいている。この実績は普通以上である。
- ・地域人材育成事業について、予算執行率が 80%以下の理由について、消極的な理由のほかに、共催によって支出が抑えられたという積極的な理由も書くほうがよい。

(図書館・歴史文化財保護課)

- ・はにわ館の企画展のPR看板が少し弱かった。玄関に大々的に出す方がよい。
- ・図書館はとても頑張っていると思っているので、C評価では低いと思う。
- ・現在の人数で流星の打上げを実施し、通常業務も行っており、AまたはB評価でも良いのではないかと。

(子育て支援課)

- ・少年センター事業について、自立支援ルームあおぞらにおいて、少年センターと連携がうまくできている。
- ・青少年育成市民会議と少年補導員の事業が似ているので、なんとかならないかと。

(保育幼稚園課)

- ・山東幼稚園の児童数の減少への対応として、認定こども園を検討してはどうか。0歳児からの受入れは施設改修が必要であるが、3歳児からの受入れであれば、そのまま使用できる。

(4) 学識経験者の意見

滋賀県立大学名誉教授 大橋松行氏 の意見

米原市教育委員会の「令和2年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等（令和元年度実績）」について、以下に報告します。

米原市が取り組まれている行財政改革は、持続可能な財政基盤の確立を推進するとともに、効率的で効果的な行政運営および地域経営を実行しようとするものです。教育の分野においても公民連携による事業推進、民間への業務委託などを積極的に推進し、時代の要請に応えていく必要があります。

主にこのような観点から、教育に関する事務の管理および執行の状況について、以下に具体的に意見を提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事務評価において全34事務事業中A評価が2、B評価が11、C評価が21で、全体に高い評価となっています。特に教育総務課、学校給食課、学校教育課においては顕著な成果を上げておられます。他方で改善点も見受けられます。1点目は評価基準に関するものです。「対象事業の達成度をAからEの5段階」で評価するとなっていますが、目標の数値化がなされていないため、内部評価のエビデンス（客観的根拠）が曖昧になっているように思います。そのためランク間の境界が曖昧になり、内部評価と外部評価との間にズレが生じているように思います。評価の客観性を担保するためには数値化できるものは数値化する必要があるのではないのでしょうか。多くの事務事業で「事業の実績」を数字で示しておられるので、目標と実績との整合性を図ることは可能だと思います。2点目は内部評価です。毎年思うことですが、外部の目から見ると十分に成果を出していると思われる事業でも慎ましい評価を付けておられる課が多いように思います。これも目標を数値化すればある程度解消されるのではないかと思います。

次に、各主管課の事務事業について見ていきます。最初に教育総務課です。「小学校施設整備事業」および「中学校施設整備事業」では、安心安全で快適な学習環境を確保するために、国の補正予算に伴う事業実施により各種の整備事業や不具合箇所の補修が十全になされたことは高く評価できます。「事務局教育振興事業」の給付型奨学金制度においては毎年度奨学金決定者が定員を下回っており、改善が必要と思われます。会議でも提案しましたが、中学生の段階から意識付けをする意味において、積極的に中学校での説明会（特に3年生対象）を実施されてはいかがでしょうか。また、「小学校管理運営事業」ですが、遠距離通学に対するスクールバスの運行等に関しては早めに基本方針の見直しを行うことが必要かと思います。運行開始当初と比べて社会情勢が大きく変化し、少子化の影響で集団登下校が困難な状況が発生していることや、親の考え方も多様化していることなどを鑑みますと、その必要性を感じます。

第2に学校給食課です。「学校給食総務管理事業」では、食物アレルギーのある園児・児童・生徒に対してこれまでから適切な対応がなされており高く評価できます。「学校給食事

業」では、地場産物の活用率が県平均活用率を大きく上回っており、この点も高く評価できます。内部評価ではB評価となっていますが、個人的にはA評価でもよいのではないかと思います。引き続き地産地消メニューの開発・推進に御尽力いただくとともに、安心安全な給食を提供していただきたいと思います。

第3に学校教育課です。全ての事務事業（7事業）でB評価がついており、相当御尽力いただいたものと思われます。「事務局教育振興事業」では、特に次の点で評価できます。①地域に根差したコミュニティ・スクール推進事業を全小中学校で進めたこと、全ての中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行ったこと。②いじめ対策関連事業では、いじめ事案報告件数が前年度比大幅増となっており、いじめにつながる些細な出来事も見逃さず、十分に対応されていると感じました。「小学校教育振興事業」および「中学校教育振興事業」では、学校経営予算制度が各学校の実情に応じた環境改善等に生かされていることは評価できますので、今後とも継続されることを望みます。

第4に生涯学習課です。多くの事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、講座の中止や貸館利用の自粛等により利用者数が大幅に減少しましたが、そのような状況下にあっても各事業で一定の実績を出しておられることは評価できると思います。いくつかの事務事業で施設の老朽化が課題として上げられていますので、速やかな対応を望みます。

最後に図書館、歴史文化財保護課、子育て支援課、保育幼稚園課です。「図書館管理運営業務」では、効率的な図書館運営を行うための努力をされ、近江図書館では一定の成果が出たことは評価できます。ただ、会議でも報告がありましたが内部評価で「市民の多様な資料要求に応える図書館」がD評価となっておりますので、その点での改善が必要かと思います。

「文化財施設管理事業」では、2館で入館者数が前年度比大幅増となったこと、イヌワシ幼鳥の剥製が多くのメディアに取り上げられ、それが米原市の魅力発信につながったことは高く評価できます。子育て支援課の2つの事業ですが、あいさつ運動、非行防止活動、家庭の教育力向上活動などを継続的に行い、一定の成果を上げておられることは評価できます。しかし、社会状況の変化に応じた活動や他機関との連携の在り方についての検討が必要かと思います。「幼稚園管理運営事業」では、前年度と同様、山東幼稚園の定員充足率の低さが気になります。長期休業期間中の一時預かり事業も前年度実績を下回っており、幼稚園型認定こども園化（預かり時間の延長）をも含めた抜本的見直しが必要ではないかと思います。

以上、各主管課の主たる事務事業について意見を付してきました。令和元年度の米原市教育委員会は、事業によっては多少の課題はあるものの、おおむね十全に機能していると思います。大きな成果を上げているものもあり、また、多くの事業で適切かつ前向きに活動を展開しておられることは評価できます。今後とも、市長部局と教育委員会が緊密に意思疎通を図り、連携して効率的で効果的な教育行政を推進するとともに、市民の声を十分に施策に反映していただくことを期待します。

元市内小学校長 膽吹 満利子氏 の意見

米原市の教育行政の点検・評価に関する懇話会に、昨年に引き続き参加しました。「令和2年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書（令和元年度実績）」を基に関係各課から、具体的な内容について説明を受けました。

近年、多くの自然災害が起こっています。しかもそれは「想定外」と言われる大規模なものであり、予想し得なかったことが、私たちの平穏な日常生活を壊していくことも少なくありません。このような日々変化の激しい状況下にあつて、変更を余儀なくされる事態も多くあったことと思います。その中にあつても、教育行政は綿密に計画されたものを適正に遂行されています。各事務事業の評価がC以上であることは、前年度以上に努力された成果であると敬意を表します。

以下、各事業について意見を述べたいと思います。

（教育総務課に関わること）

- ・継続する事業の推進は、課題の見直しによって次への取組が向上すると考えます。課題等を踏まえた点検・評価を実施され、今後、事業の取組が益々充実されることを期待します。
- ・高齢化が進む米原市にとって、将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るための事業は大切です。給付型奨学金制度は順調に進められていますが、定員枠を若干残した状況です。説明にもありましたが、募集時期の検討や積極的な周知活動を今後も進めていただきますようお願いいたします。長いスパンの事業となります。また、確実な結果が読めないことでもあります。計画・実践・評価・改善等とより良いものになるようお願いいたします。広い視野の中で、米原で学んだ若者の将来が豊かで温かいものとなるよう望みたいものです。
- ・広範囲の校区や児童生徒数の減少によって、今までの通学方法では安全を危惧することがあるようです。通学の安全は第一です。スクールバス等の活用についての見直しを継続し、安全な登下校ができるようお願いします。
- ・施設設備の適切な維持、備品の配置等、学習環境の整備が計画的且つ適切に進められています。予算の厳しい中、国の交付金を活用するなど、見通した適時適切な計画が進んでいます。一層の充実に期待します。

（学校給食に関わること）

- ・学校給食総務管理事業および学校給食事業ともにB評価なのは、御苦勞の多い日々の中で努力を重ねてこられた賜であると思います。微に入り細を穿った実践に感謝するとともに今後の活躍にも期待します。食育推進事業や特色ある給食の実施および地場産業導入の推進の実績をみると、評価を高めていただいても良いと思います。
- ・食することは身体の健康はもちろんのこと、心の健康にも大きく関わってきます。おいしく頂くだけでなく楽しく頂くことも重要です。子どもたちに安心・安全な、そして工夫された楽しい食の提供をお願いします。

（学校教育課に関わること）

- ・今、学校教育は、学校現場のみならずいろいろな角度からの支援、指導、協力、協働等、多種多様の中で行われています。子どもの健やかな育成を目的に、めまぐるしい変化の中で、各関係機関と連携を図り、より良いものへと努められています。常に課題を明確にし、解決の方法を考え、日々力を注いでおられ、業績が全てB評定であることに敬意を表します。
- ・各事業において成果を上げられておられます。年々過酷な現場と周知しうる中で、更にお願いするのは、刷新すべきものが恒例の中でうごめいていることのないよう、新たな

切り口も拓いていただけるとよいかと思えます。「教育は一日にしてならず」です。先生方の日々の努力の成果が、年々受け継がれ築かれていきます。今後とも、成果の上に更なる力を蓄積できる実践をしていただけると確信しています。

- ・生き生き学べる学習環境づくりは必須です。一人一人のニーズに応じた指導は困難を極めますが、可能なものは既に取り組んでいただいています。どの子も自分の可能性を伸ばせる教育環境づくりに努力されています。今後とも、各関係機関との連携を深め、一人一人を大切にしたい教育が更に促進することを願っています。
- ・これからの米原市の教育を担う若手教員の育成は、各学校現場はもちろんのこと教育センターの大きな仕事のひとつと考えます。今後益々若年化する現場において短期間で実践力を付けていただき、リーダー性を身に付けていただかねばなりません。先生が元気になっていただければこそ、そこに集う子どもたちも生き生きと育つはずで。各種講座等を設け実践していただいています。複雑化する中での適正な指導や多忙極まる雑務の処理等、研修の益々の充実をお願いするとともに、職員の心のケアもお願いします。

(生涯学習課に関わること)

- ・広範囲を対象とする事業への取組は周知や状況把握が難しいことが多いかと思えます。各種のリサーチ、内容の吟味等を行い実践へとつなげておられます。これらの事業の一つ一つがまちの活性化につながるよう期待します。
- ・スポーツ振興事業は大変大きな事業で、市を活気付けてくれるものです。若い世代のスポーツへの取組が少ないことが課題の一つとなっていますが、魅力ある取組を期待しています。
- ・人権教育事業はC評価へと向上しました。推進活動によってハートフルフォーラムの開催が増えたようです。人権意識・人権感覚の向上は住み良いまちづくりの実現に欠かせません。今後とも引き続き、実情に合わせた推進を進めてください。
- ・各関係機関と連携を図り、生き生きと活動できる場づくりに取り組んでおられます。管理・運営の課題は多くあると思いますが、より良い場づくりを期待します。

(図書館に関わること)

- ・「ここに来れば答えはある」そんな場所にしてくださっています。図書館サービスも社会の変化とともに幅広いものになっています。あらゆることに対応できるように努めてくださっていることは、市民の生活の向上となっています。図書館を身近に感じ、深い知識と豊かな情操を提供できる場として、今後とも図書館教育の充実に努められることを願います。
- ・山東図書館と近江図書館との連携を図り、休館日や開館時間を工夫して運営していただいたことは、市民にとって利用しやすく大変ありがたいことです。

(歴史文化財保護課に関わること)

- ・米原市には豊かな文化と誇れる歴史があります。市を誇らしく思い愛する気持ちを育むために、数々のイベントを開催したり場の提供をしたり、豊かな活動を推進されています。今後とも、市民が親しめる活動を進められることを期待しています。
- ・歴史的なものは継承していくことが大切です。工夫したイベントを行うことによって人々の関心を高め、大切なものを伝承していけるように努めていただいています。

(子育て支援課に関わること)

- ・社会から孤立する若者が増えている現状において、実態把握に努め、各関係機関との連携を密に早期対策を講じて、自立への支援が充実するよう努めていただいています。個々に課題が違うデリケートな問題です。長期化することもあります。細やかな継続支援ができるように今後もお願いします。

(保育幼稚園課に関わること)

- ・園ごとに特色ある園づくりを進められ、子どもたちの健やかな育成を図られています。多様化する保育ニーズは年々増加にあり、柔軟な対応が苦慮される毎日と思います。引き続き保育・教育の向上と、勤務システムの複雑な中でも園運営がスムーズに進むことを希望します。

以上、懇話会での説明や話し合いを受け、私の個人的な思いを述べさせていただきました。昨年度末に発生した新型コロナウイルスの感染者は増加の一途をたどっています。このため感染拡大防止の対策が各方面で取られています。教育に関する各事業においても延期および中止が相次ぎました。このような下であってどのように事業を進めていくかは難しいことですが、最大限の努力で取り組み、成果を求めておられます。今必要なのは、生きる力のみならず「生き抜く力」なのかもしれません。米原市の教育行政に関わっておられる皆様の御尽力に感謝するとともに、今後も米原市の未来を見据えた教育行政が効果的・計画的に推進されることを願っています。

(1) 施策の体系と事務事業一覧

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
2. ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり					
1. 心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち					
①就学前保育・教育、学校教育の充実					
②就学前保育・教育、教育環境の充実					
			1. 事務局総務事業	教育総務課	
			2. 事務局教育振興事業	教育総務課	校外活動等バス運行
			3. 小学校管理運営事業	教育総務課	小学校施設管理・バス通学補助 スクールバス運行
			4. 小学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童就学援助費 特別支援教育就学奨励費
			5. 小学校施設整備事業	教育総務課	
			6. 中学校管理運営事業	教育総務課	中学校施設管理
			7. 中学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童就学援助費 特別支援教育就学奨励費
			8. 中学校施設整備事業	教育総務課	
			9. 学校給食総務管理事業	学校給食課	
			10. 学校給食事業	学校給食課	学校給食施設維持管理・運営事業
			34. 幼稚園管理運営事業	保育幼稚園課	
2. 地域全体で子どもを守り育てるまち					
①地域の特性に応じた学校運営の推進					
②家庭・地域の教育力の強化					
			11. 事務局教育振興事業	学校教育課	就学指導委員会、通級指導教室
			12. 教育センター事業	学校教育課	学力状況調査
			13. 子どもサポート事業	学校教育課	子どもケアサポーター・教育相談
			14. 小学校管理運営事業	学校教育課	
			15. 小学校教育振興事業	学校教育課	
			16. 中学校管理運営事業	学校教育課	
			17. 中学校教育振興事業	学校教育課	
			18. 社会教育総務事業	生涯学習課	
			32. 次代を担う青少年育成事業	子育て支援課	
			33. 少年センター事業	子育て支援課	
3. 人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち					
①学びの場づくりの推進					
②学びを生かした人材育成の推進					
③図書館機能の整備・充実					
			20. 地域人材育成事業	生涯学習課	ルッチまちづくり大学運営事業
			23. 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	生涯学習課	
			24. 次代を担う青少年育成事業	生涯学習課	成人式
			25. 公民館管理運営事業	生涯学習課	

(1) 施策の体系と事務事業一覧

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
			28. 図書館管理運営事業	図書館	
			29. はにわ館管理運営事業	生涯学習課	
		4. 誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち			
		①文化・芸術の振興 ②歴史文化遺産の保存活用 ③文化遺産の保存活用			
			21. 文化のまちづくり事業	生涯学習課	
			22. 市民交流プラザ管理運営事業	生涯学習課	
			30. 文化財保護事業	歴史文化財保護課	
			31. 文化財施設管理運営事業	歴史文化財保護課	
		5. スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち			
		①米原らしさを生かしたスポーツの推進 ②子どものスポーツ活動の推進 ③地域スポーツ活動の推進 ④スポーツを身近に楽しめる環境づくり			
			26. 体育施設管理運営事業	生涯学習課	
			27. スポーツ推進事業	生涯学習課	
		6. 一人一人が尊重され平和を大切にするまち			
		①人権文化・人権教育の推進			
			19. 人権教育推進事業	生涯学習課	人権教育啓発推進事業

(2) 点検および評価等の結果

主要施策の成果説明書の事業に基づき、教育委員会に関連する事務を 35 に分類し、事業ごとに点検および評価を行いました。

事業ごとに、総合計画上の位置付け、政策・基本施策・単位施策・基本事業を記載しています。

(ア) 平成 30 年度の予算額、決算額、執行率、決算における財源内訳、当該事業の概要を記載しています。

(イ) 対象事業の主な実績に加え、今年度から事業の課題と今後の取組を記載しています。

(ウ) 対象事業の達成度を A から E の 5 段階の評価し、評価の内容をまとめています。

【評価ランク】

A	期待以上に達成できた	・当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ・当初計画以上に早く事業が完了した
B	期待をやや上回る程度に達成できた	・変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ・初期の目的をおおむね達成できた
C	期待どおり	・前年度と同様の実績であった ・ほぼ計画どおり事業を実施できた
D	やや不十分である	・期待を下回る実績であった ・事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った
E	不十分である	・当該年度の計画が実施できなかった

【対象事業の評価一覧】

対象事業の主管課別評価を基に懇話会での意見を踏まえた評価結果は以下のとおりとなりました。

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
1	事務局総務事業	C	教育総務課
2	事務局教育振興事業	C	〃
3	小学校管理運営事業	C	〃
4	小学校教育振興事業	C	〃
5	小学校施設整備事業	A	〃
6	中学校管理運営事業	C	〃
7	中学校教育振興事業	C	〃
8	中学校施設整備事業	A	〃
9	学校給食総務管理事業	B	学校給食課
10	学校給食事業	B	〃
11	事務局教育振興事業	B	学校教育課
12	教育センター事業	B	〃
13	子どもサポート事業	B	〃
14	小学校管理運営事業	B	〃
15	小学校教育振興事業	B	〃
16	中学校管理運営事業	B	〃
17	中学校教育振興事業	B	〃
18	社会教育総務事業	C	生涯学習課
19	人権教育推進事業	C	〃
20	地域人材育成事業	C	〃
21	文化のまちづくり事業	C	〃
22	市民交流プラザ管理運営事業	C	〃
23	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	C	〃
24	次代を担う青少年育成事業	C	〃
25	公民館管理運営事業	C	〃
26	体育施設管理運営事業	C	〃
27	スポーツ推進事業	B	〃
28	図書館管理運営事業	C	図 書 館

29	はにわ館管理運営事業	C	〃
30	文化財保護事業	B	歴史文化財保護課
31	文化財施設管理運営事業	C	〃
32	次代を担う青少年育成事業	C	子育て支援課
33	少年センター事業	C	〃
34	幼稚園管理運営事業	C	保育幼稚園課

主管課名	A	B	C	D	E	対象事業数
教育総務課	2		6			8
学校給食課		2				2
学校教育課		7				7
生涯学習課		1	9			10
図書館			2			2
歴史文化財保護課		1	1			2
子育て支援課			2			2
保育幼稚園課			1			1
計	2	11	21	0	0	34

事業番号		1																									
款	10 教育費	項	1 教育総務費																								
目	2 事務局費																										
事業名	継続	事務局総務事業	主管課 教育委員会 教育総務課																								
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																									
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち																									
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実																									
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)																								
予算額	630,000	723,000	国 費																								
うち繰越	0	0	県 費																								
決算額	471,416	519,968	市 債																								
うち繰越	0	0	そ の 他																								
執行率(%)	74.8	71.9	一般財源																								
		345,416	375,968																								
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)																									
各種会議への参加が見込みよりも少なかったため。																											
事業の目的および内容																											
第2期教育振興基本計画に基づき、更なる教育施策の推進に努めます。																											
事業の実績																											
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、平成30年度の教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価等を行い、報告書を公表しました。 教育事務点検評価者報償費 20,000 円 【点検、評価の目的】 教育委員会は、首長から独立した中立的かつ専門的な立場で、学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する行政機関として設置されています。教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、効果的かつ計画的な教育行政の推進に資することを目的としています。 【点検、評価の方法】 平成30年度における主要施策の成果説明書の事業分類により、外部評価者2人と教育委員会以自己点検および評価を行いました。 【教育事務事業の評価】計 35 事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評 価 ラ ン ク</th> <th>対 象 事業数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>期待以上に達成できた</td> <td>①当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ②当初計画以上に早く事業が完了した</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>期待をやや上回る程度に達成できた</td> <td>①変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ②初期の目的をおおむね達成できた</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>期待どおり</td> <td>①前年度と同様の実績であった ②ほぼ計画どおりの事業を実施できた</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>やや不十分である</td> <td>①期待を下回る実績であった ②事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>不十分である</td> <td>①当該年度の計画が実施できなかった</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				評 価 ラ ン ク			対 象 事業数	A	期待以上に達成できた	①当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ②当初計画以上に早く事業が完了した	2	B	期待をやや上回る程度に達成できた	①変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ②初期の目的をおおむね達成できた	11	C	期待どおり	①前年度と同様の実績であった ②ほぼ計画どおりの事業を実施できた	21	D	やや不十分である	①期待を下回る実績であった ②事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った	1	E	不十分である	①当該年度の計画が実施できなかった	0
評 価 ラ ン ク			対 象 事業数																								
A	期待以上に達成できた	①当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ②当初計画以上に早く事業が完了した	2																								
B	期待をやや上回る程度に達成できた	①変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ②初期の目的をおおむね達成できた	11																								
C	期待どおり	①前年度と同様の実績であった ②ほぼ計画どおりの事業を実施できた	21																								
D	やや不十分である	①期待を下回る実績であった ②事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った	1																								
E	不十分である	①当該年度の計画が実施できなかった	0																								
事業の成果			評価																								
教育事務の点検および評価に関し、外部評価者2人と教育委員会委員5人で、10月に意見交換を行い、今後のより良い教育行政に役立てることができました。			C																								
事業の課題と今後の取組																											
教育事務の点検および評価に関し、昨年度の事業の成果に基づき評価を行いました。課題や今後の取組について触れていないことから、今後は課題等を踏まえた点検および評価を行っていきます。																											

事業番号		2									
款	10 教育費	項	1 教育総務費								
目	3 教育振興費										
事業名	継続	事務局教育振興事業	主管課 教育委員会 教育総務課								
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり									
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち									
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実									
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)								
予算額	26,776,000	18,283,000	国 費								
うち繰越	0	0	県 費								
決算額	25,596,111	17,207,353	市 債								
うち繰越	0	0	そ の 他								
執行率(%)	95.6	94.1	一般財源								
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)									
事業の目的および内容											
(1) 子どもたちが総合的な学習を通じて、幅広い体験ができるようバスを運行し、各学校の校外活動の充実や学校間の交流を促進します。 (2) 給付型奨学金制度により、修学に必要な学資金の給付を行うことで、将来を担う人材の育成および市への定住を促進します。											
事業の実績 ※小学校児童数 2,079人、中学校生徒数 1,012人 (令和元年5月1日現在…学校基本調査基準日)											
(1) バス事業者への委託により学校支援バスを運行しました。そのほか、校外活動等のために伊吹地域スクールバス3台、山東小学校スクールバス1台および河南小学校スクールバス1台を活用しました。 校外活動バス借上料(延べ141台) 5,208,286 円 校外活動バス運転手賃金 552,825 円											
		小学校の主な校外活動状況									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>行 先</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリスタルプラザ</td> <td>柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校</td> </tr> <tr> <td>長浜水道企業団</td> <td>坂田小学校、息長小学校</td> </tr> <tr> <td>米原消防署</td> <td>柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校</td> </tr> </tbody> </table>		行 先	学校名	クリスタルプラザ	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校	長浜水道企業団	坂田小学校、息長小学校	米原消防署	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校
行 先	学校名										
クリスタルプラザ	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校										
長浜水道企業団	坂田小学校、息長小学校										
米原消防署	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、息長小学校 坂田小学校										
【伊吹山文化資料館での校外活動】											
(2) 将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るため、令和元年度分の奨学金の給付を行いました。また、令和2年度分の奨学生を募集し、審査を行いました。 ≪平成30年度分≫ 申請者：37人 奨学生決定者：29人 10,440,000 円 ≪令和元年度分≫ 申請者：32人 奨学生決定者：26人 9,360,000 円 ≪令和2年度分≫ 申請者：37人 奨学生給付審査会決定者：32人											
事業の成果			評価								
(1) 市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習および環境学習、創作活動などの様々な体験を通じて、子どもたちの社会性を養う一助と (2) 給付型奨学金の給付を行うことにより、市への愛着と誇りを持った意欲のある若者に対し、進学へのバックアップが図れました。			C								
事業の課題と今後の取組											
毎年度、奨学金の定員枠を40人に設定していましたが、申込者が定員に達しない状況が続いています。そのため、引き続き複数募集や時期の検討、より積極的な周知活動を行います。											

事業番号		3	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	1 学校管理費		
事業名	継続	小学校管理運営事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり
		基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち
		単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	51,176,000	44,902,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	48,607,652	41,900,151	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	95.0	93.3	一般財源
		48,607,652	41,900,151
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
(1) 小学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。 (2) 徒歩通学が困難な児童のため、スクールバスの運行や路線バスなどによる通学児童の支援を行い、通学環境の充実を図ります。			
事業の実績 ※小学校児童数 2,079人（令和元年5月1日現在…学校基本調査基準日）			
(1) 小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 18,898,424 円			
(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器等リース料 3,067,930 円			
(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、児童用机・椅子ほか 8,230,073 円			
(4) 安全な通学環境を確保するため、バス通学者への助成を行いました。（72人） 4,031,130 円 バス等利用延べ児童数 (単位：人)			
学校名	湖国バス	まいちゃん号	合計
柏原小学校	37	2	39
山東小学校	0	6	6
米原小学校	0	13	13
河南小学校	0	4	4
息長小学校	10	10	20
合計	47	35	82
※息長小学校は、登校に湖国バス、下校にまいちゃん号を利用しています。			
(5) 伊吹地域スクールバス3台、山東小学校および河南小学校のスクールバス計5台を通学および校外活動等のために運行しました。 スクールバス運行管理経費（燃料費、運転手賃金等） 13,068,408 円			
事業の成果			評価
(1) 各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。 (2) 小学校児童の遠距離通学に対してスクールバスを運行し、安全な通学環境の確保につなげることができました。			C
事業の課題と今後の取組			
児童数の減少や保護者の就労により、少人数で下校する地域が増えています。また、米原市内小中学校における通学に関する基本方針を定めてから5年が経過していることから、基本方針の見直しを行っていきます。			

事業番号		4																									
款	10 教育費	項	2 小学校費																								
目	2 教育振興費																										
事業名	継続	小学校教育振興事業	主管課 教育委員会 教育総務課																								
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																									
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち																									
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実																									
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)																								
予算額	131,118,000	13,964,000	国 費																								
うち繰越	0	0	県 費																								
決算額	14,722,604	13,731,398	市 債																								
うち繰越	0	0	そ の 他																								
執行率(%)	11.2	98.3	一般財源																								
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)																									
国の補正予算に伴う事業実施により、市内全小学校の 校内通信ネットワーク整備事業を令和2年度へ繰り越し したため。 <令和2年度への繰越額> 115,000,000円																											
事業の目的および内容																											
(1) 経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童への援助を行い、安心して学習できる環境となる よう支援します。 (2) 文部科学省が示す「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に基づき、市内小中学校のICT環境 整備を計画的に実施しています。特に、国が進める「GIGAスクール構想」においては、児童1人1 台端末を前提とした高速大容量の通信ネットワークを整備します。																											
事業の実績																											
(1) 経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童が安心して学習できる環境を確保するため、学用 品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学児童学用品費を入学準備金として支給しま した。 要保護準要保護児童就学援助費 (うち 令和2年度入学準備金 特別支援教育就学奨励費 13,348,114 円 1,416,800 円 1,374,490 円 支給対象者の5年間の推移 (単位：人) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要保護児童就学援助</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>準要保護児童就学援助</td> <td>151</td> <td>166</td> <td>161(24)</td> <td>196(23)</td> <td>203(28)</td> </tr> <tr> <td>特別支援教育就学奨励</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>48</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	要保護児童就学援助	0	2	0	2	0	準要保護児童就学援助	151	166	161(24)	196(23)	203(28)	特別支援教育就学奨励	41	41	44	48	47
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																						
要保護児童就学援助	0	2	0	2	0																						
準要保護児童就学援助	151	166	161(24)	196(23)	203(28)																						
特別支援教育就学奨励	41	41	44	48	47																						
※平成29年度から令和元年度の準要保護児童就学援助の()の数値は、入学準備金支給対象者数																											
(2) 国が進める「GIGAスクール構想」による校内ネットワーク環境の整備については、国の補正予算に おいて補助金の交付決定を受けましたが、年度内完了が見込めないため、令和2年度へ繰り越しま した。																											
事業の成果			評価																								
経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義 務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に 合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。			C																								
事業の課題と今後の取組																											
平成29年度から入学準備金を入学前に支給することが可能になったことから、経済的な支援を必要 とする世帯に支援が行き届くよう、就学援助について入学前からの周知に力を入れる必要がありま す。																											

事業番号		5	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	3 施設整備費		
事業名	継続 小学校施設整備事業	主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	121,620,000	143,816,000	国 費
うち繰越	18,800,000	86,300,000	県 費
決算額	48,823,751	120,665,416	市 債
うち繰越	16,072,560	81,972,000	そ の 他
執行率(%)	40.1	83.9	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
国の補正予算に伴う事業実施により、春照小学校グラウンド改修工事を令和2年度へ繰り越したため。 <令和2年度への繰越額> 70,000,000円		繰越事業費等充当財源繰越金 30,560円	
事業の目的および内容			
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。			
事業の実績			
(1) 山東小学校放送卓改修工事 快適な学習環境を確保するため、山東小学校の放送卓を改修しました。 工事費： 1,931,040 円			
(2) 体育館照明(LED)改修工事(柏原小学校、河南小学校) 快適な学習環境を確保するため、2小学校の体育館照明をLEDに改修しました。 工事費： 10,833,420 円			
(3) 小学校体育館トイレ改修工事(柏原小学校、山東小学校)(繰越) 快適な学習環境を確保するため、2小学校の体育館トイレを洋式に改修しました。 工事費： 16,072,560 円			
			
【柏原小学校体育館トイレ改修工事】		【柏原小学校体育館照明改修工事】	
事業の成果			評価
各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。			A
事業の課題と今後の取組			
米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕などを計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。			

事業番号		6	
款	10 教育費	項	3 中学校費
目	1 学校管理費		
事業名	継続	中学校管理運営事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	28,618,000	19,195,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	27,170,766	18,713,322	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	94.9	97.5	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
中学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。			
事業の実績 ※中学校生徒数 1,012人（令和元年5月1日現在…学校基本調査基準日）			
(1) 中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 13,106,041 円			
(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器等リース料 2,423,919 円			
(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、生徒用机・椅子ほか 9,360,452 円			
事業の成果			評価
各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。			C
事業の課題と今後の取組			
安全安心な学習環境を確保するため、各種設備の管理を行うとともに、施設の運営等に必要な備品を配備していく必要があります。			

事業番号		7			
款	10 教育費	項	3 中学校費		
目	2 教育振興費				
事業名	継続	中学校教育振興事業	主管課 教育委員会 教育総務課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち			
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実			
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)		
予算額	79,327,000	108,510,000	国 費		
うち繰越	0	0	県 費		
決算額	17,784,034	106,617,842	市 債		
うち繰越	0	0	そ の 他		
執行率(%)	22.4	98.3	一般財源		
		17,262,034	106,026,842		
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)			
国の補正予算に伴う事業実施により、双葉中学校を除く市内中学校の校内通信ネットワーク整備事業を令和2年度へ繰り越したため。 <令和2年度への繰越額> 60,000,000円					
事業の目的および内容					
(1) 中学校パソコン教室の機器を継続して配備し、ICT（情報通信技術）を活用した教育の充実を図ります。 (2) 経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒への援助を行い、安心して学習できる環境となるよう支援します。 (3) 文部科学省が示す「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に基づき、市内小中学校のICT環境整備を計画的に実施しています。特に、国が進める「GIGAスクール構想」においては、生徒1人1台端末を前提とした高速大容量の通信ネットワークを整備します。					
事業の実績					
(1) 情報学習の強化を図るため、パソコン機器の継続リースを行いました。 パソコン教室機器リース料 5,099,760 円 (2) 経済的や身体的な理由により、就学が困難な生徒が安心して学習できる環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学生徒学用品費を入学準備金として支給しました。 要保護準要保護生徒就学援助費 11,516,162 円 （うち 令和2年度入学準備金 1,722,000 円） 特別支援教育就学奨励費 1,043,540 円					
支給対象者の5年間の推移 (単位：人)					
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要保護生徒就学援助	0	2	0	0	0
準要保護生徒就学援助	105	105	100(27)	105(31)	106(30)
特別支援教育就学奨励	25	28	22	23	21
※平成29年度から令和元年度の準要保護生徒就学援助の()の数値は、入学準備金支給対象者数					
(3) 国が進める「GIGAスクール構想」による校内ネットワーク環境の整備については、国の補正予算において補助金の交付決定を受けましたが、年度内完了が見込めないため、令和2年度へ繰り越しました。					
事業の成果				評価	
(1) パソコン教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につながることができ、情報学習の強化を図ることができました。今後も引き続き、質の高い情報学習環境の確保に努めます。 (2) 経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。				C	
事業の課題と今後の取組					
平成29年度から入学準備金を入学前に支給することが可能になったことから、経済的な支援を必要とする世帯に支援が行き届くよう、就学援助について入学前からの周知に力を入れる必要があります。					

事業番号		8	
款	10 教育費	項	3 中学校費
目	3 施設整備費		
事業名	継続	中学校施設整備事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	666,800,000	625,563,000	国 費
うち繰越	349,300,000	192,763,000	県 費
決算額	331,828,862	250,775,736	市 債
うち繰越	290,916,940	173,375,920	そ の 他
執行率(%)	49.8	40.1	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
国の補正予算に伴う事業実施により、大東中学校体育館照明改修工事、双葉中学校長寿命化改良工事を令和2年度へ繰り越したため。 <令和2年度への繰越額> 275,200,000円		繰越事業費等充当財源繰越金 166,940円	
事業の目的および内容			
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。			
事業の実績			
(1) 柏原中学校校舎防水事業(Ⅱ期工事) 安心安全で快適な学習環境を確保するため、校舎の防水工事を実施しました。 監理委託費：429,000円、工事費：20,145,240円 20,574,240円			
(2) 河南中学校体育館照明(LED)改修工事 快適な学習環境を確保するため、体育館照明をLEDに改修しました。 工事費： 7,829,800円			
(3) 双葉中学校長寿命化改良工事(Ⅰ期)(繰越) 安心安全で快適な学習環境を確保するため、学校施設長寿命化計画に基づき、双葉中学校長寿命化改良工事を行いました。 監理委託費：8,965,000円、工事費：248,044,900円 257,009,900円			
(4) 中学校体育館トイレ改修工事(米原中学校、河南中学校)(繰越) 快適な学習環境を確保するため、2中学校の体育館トイレを洋式に改修しました。 工事費： 33,396,840円			
			
【双葉中学校長寿命化改良工事(Ⅰ期)】		【河南中学校体育館トイレ改修工事】	
事業の成果			評価
各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。			A
事業の課題と今後の取組			
米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕などを計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。			

事業番号		9	
款	10 教育費	項	6 保健体育費
目	4 学校給食費		
事業名	継続 学校給食総務管理事業	主管課	教育委員会 学校給食課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	620,000	619,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	476,265	484,617	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	76.8	78.3	一般財源
		476,265	484,617
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
新型コロナウイルス感染症拡大防止により、3月に予定していた学校給食運営委員会を中止したことにより、当該委員報酬の支出が少なくなったため。			
事業の目的および内容			
給食施設および学校給食の適正かつ円滑な運営を図ります。			
事業の実績			
(1) 学校給食運営委員会を2回開催し、学校給食の運営に関する協議事項の審議、意見を求めました。 学校給食運営委員報酬 75,000円 運営委員数 17人(報酬支払対象11人)			
(2) 食物アレルギー対応検討委員会を開催し、食物アレルギーのある子どもへの代替食や除去食の対応および次年度に向けての検討を行いました。 食物アレルギー対応検討委員会1回開催			
令和元年度の食物アレルギー対応人数 東部給食センター分 80人、西部給食センター分 56人 計136人(平成30年度:134人) (内訳:延べ数) (単位:人)			
項目	卵	牛乳	乳製品
	甲殻類	魚介類	種実類
	大豆	果物	野菜
	小麦	その他(牛、豚肉)	
東部	24	10	7
	15	13	16
	3	36	4
	1	0	1
西部	12	12	10
	13	13	14
	0	16	6
	1	1	
(3) 給食費保護者負担金の口座振替について、各金融機関に支払う口座振替手数料を負担しました。 給食費保護者負担金口座振替手数料 397,265円(33,400件)			
事業の成果			評価
(1) 運営委員会では特に給食費改定について議論いただき、令和2年4月からの改定案について承認いただきました。 (2) 食物アレルギー対応検討委員会では、食物アレルギーへの適切な対応を検討することにより、アレルギーのある子どもへ安心安全な学校給食を提供することができました。			B
事業の課題と今後の取組			
食物アレルギー対応人数は、年を追うごとに増加する傾向にあり、食物アレルギーへの適切な対応により、安心安全な学校給食を提供する必要があります。			

事業番号		10				
款	10 教育費	項	6 保健体育費			
目	4 学校給食費					
事業名	継続 学校給食事業	主管課	教育委員会 学校給食課			
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち				
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実				
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)			
予算額	328,069,000	320,857,000	国 費			
うち繰越	0	0	県 費			
決算額	308,780,513	313,066,842	市 債			
うち繰越	0	0	そ の 他			
執行率(%)	94.1	97.6	一般財源			
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)				
		東部給食センター調理研修室使用料 1,200円 給食センター講座受講料 25,200円 学校給食費保護者等負担金 153,834,460円 特定教育・保育施設使用料 4,052,700円 特定教育・保育施設給食費利用者負担金 6,857,066円				
事業の目的および内容						
生活の多様化が進み、食生活を取り巻く社会環境も大きく変化する中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安心安全な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。						
事業の実績						
学校および園に安心安全な給食を提供するため、学校給食衛生管理基準に基づく衛生面への配慮など、給食センターの適正な管理運営に努めるとともに、アレルギーへの対応や、地元の食材の積極的な活用を行いました。また、食育の推進のため、調理実習や指導体験教室を展開しました。 なお、令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小中学校が臨時休業となったことから給食を停止し、給食費の徴収も行いませんでした。						
(1) 給食提供数(職員を含む。)		令和2年3月現在				
区 分	東部給食センター		西部給食センター		計	
	校園数	食数	校園数	食数	校園数	食数
幼稚園・認定園	4	549 食	1	225 食	5	774 食
小学校	6	1,140 食	3	1,166 食	9	2,306 食
中学校	4	623 食	2	550 食	6	1,173 食
合 計	14	2,312 食	6	1,941 食	20	4,253 食
※参考 賄材料費	91,322,499円		77,387,588円		168,710,087円	
(2) 給食回数と主食の内容						
項 目	東部給食センター		西部給食センター			
米飯給食	154 回		154 回			
パン給食	17 回		17 回			
麺給食	22 回		22 回			
合 計	193 回		193 回			
(3) 給食費保護者負担金等徴収状況						
現年度分	調定額	154,103,970円	未納額	269,510円		
	収入額	153,834,460円	収納率	99.83%		
過年度分	調定額	2,088,596円	未納額	1,911,406円		
	収入額	177,190円	収納率	8.48%		
(4) 東部・西部給食センターにおける食育推進事業						
子どもと保護者を対象に、食に関する指導体験学習等を通じて食育の推進に取り組みました。						
①食に関する指導体験学習(発達段階に応じた食に関する指導を実践)						
グリーンピースのさやむき体験(小学2年生12回)、味噌作り体験(小学4年生9回)						
②食に関する指導特別給食						
お鍋給食とミニバイキング(13回)						



【グリーンピースのさやむき体験】

事業の実績

③保護者への食育

親子給食での講演6回(231人)、健康教室1回、
親子料理教室2回(62人)、センター見学・試食・食育6回

④収穫体験

白ねぎ収穫：山東小(3年)18人、春照小(3年)30人
ブロッコリー収穫：米原小(2年)72人

⑤食育に関する情報発信

給食だよりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介しました。



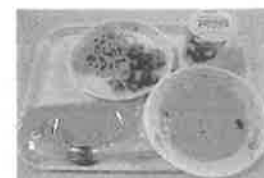
【ブロッコリーの収穫】

(5) 特色ある給食

項 目	東部給食センター	西部給食センター
お鍋給食	7回(小学6年生)	6回(小学6年生)
季節の行事食		
お誕生日給食		
カミカミメニュー	各月1回	各月1回
日本食生活の日		
ふるさと滋養給食の日		
セレクト給食(給食週間中)	1回(全校)	1回(全校)
郷土料理		
地元食材の使用	随時	随時
食べ物の旅給食	月1回	月1回
ニュージーランド給食	3回(7月、10月、1月)	



【お鍋給食】



【ニュージーランド給食】

※ニュージーランド給食は、ホストタウン事業の一環として実施しました。

地場産物の導入の促進

JAと連携し、年間を通じて学校給食に地元の食材を活用するほか、給食週間にも郷土料理や地元の食材を献立に取り入れるなど、地産地消メニューの開発を進めました。
地場産物の活用率 39.0% (県平均活用率 30.5%)

(6) 施設の主な運営経費

①子どもに美味しい給食を提供するため、臨時職員を配置して直営による調理業務を実施しました。

臨時職員賃金(栄養士、配膳員含む。)

東部給食センター(常勤：18人 非常勤：7人) 28,293,711円

西部給食センター(常勤：14人 非常勤：7人) 20,125,096円

②配送業務は、市シルバー人材センターへの業務委託により対応しました。

配送業務委託料 東部給食センター 9,682,080円

西部給食センター 2,826,144円

(7) 給食センター施設修繕

両給食センターの厨房機器等の適正な維持管理と修繕を実施しました。

修繕料(厨房機器、施設修繕) 6,275,394円

事業の成果

- 給食の食材については、JAと連携し安心な地元の食材を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均30.5%を上回る39.0%となりました。
- 給食メニューの多様化を図るため、月目標を定め各県の特色ある料理を給食に取り入れたり、市内の行事に合わせた給食(蛍メニューなど)、バイキング給食や特色ある給食としてお鍋給食を実施するなど、子どもたちの食への関心を高めることができました。
- 東部給食センター調理研修室では、施設見学、試食会や親子活動として料理教室を開催するなど、施設の利用促進を図りました。
- 毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通して食べ物の大切さを知ってもらいました。
- 食物アレルギーのある子どもたちの給食については、代替食・除去食の対応を徹底し、保護者、学校、センターの三者が連絡調整を密にすることで、安全な学校給食を提供することができました。
- 施設の適正な保守管理と修繕、衛生基準に基づく徹底した衛生管理を行い、安全な給食を子どもたちに届けることができました。
- ホストタウン事業の一環として、ニュージーランドの食事(キウイバーガー、豚肉のキウイソースがけ、クマラスープ)を学校給食に取り入れ、同国の食文化に触れる機会を提供することができました。

評価

B

事業の課題と今後の取組

両給食センターの厨房機器等の定期的な保守点検と施設の適正な維持管理を実施し、年次計画に基づき改修または更新を行い、調理業務に支障をきたさないように努めます。

事業番号		11					
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費		
事業名		継続	事務局教育振興事業		主管課	教育委員会 学校教育課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち				
		単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進				
事業費(円)		元年度	30年度	財源内訳(円)		元年度	30年度
予算額		61,994,000	27,542,000	国 費		75,000	0
うち繰越		0	0	県 費		3,367,000	4,235,334
決算額		57,366,970	23,633,506	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		5,666,000	3,437,000
執行率(%)		92.5	85.8	一般財源		48,258,970	15,961,172
執行率80%以下の理由(元年度)				その他の内訳(元年度)			
				地域の絆でまちづくり基金繰入金 4,145,000円			
				米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 1,500,000円			
				翻訳機器利用状況記録作業料 21,000円			
事業の目的および内容							
(1)コミュニティ・スクール推進事業、学校支援地域本部事業に取り組み、地域住民の参画により、地域とともにある学校づくりを進めます。							
(2)いじめの防止、早期解決のための体制の強化に向けて、いじめ等対応支援員を配置するとともに、いじめ問題専門委員会、いじめ問題調査委員会の設置を行います。							
(3)特別支援教育支援委員会を設け、障がいのある幼児、児童、生徒の適切な就学先等の協議を行います。							
(4)通常学級在籍の障がいのある児童生徒に対して、週1時間程度指導を行う通級指導教室を開設し、児童生徒の個々の状況に応じた指導を行います。							
(5)特別支援教育総合推進事業を実施し、相談員が市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校を巡回し、障がいのある子どもたちへの支援の方法等の助言や相談を行います。							
(6)免許外指導等を解消するため、中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣します。							
(7)伊吹山へ登ろう事業や森林環境学習やまのこ事業などを行い、体験活動の充実に努めます。							
(8)学校図書館に問題解決的な学習を支援する図書館司書を配置し、学習センターとしての機能を強化します。							
(9)スクール・サポート・スタッフを配置し、教職員が健康で生き生きと仕事に取り組むための働き方改革を推進します。							
(10)基礎学力の確かな定着と生活困窮世帯の子どもの学習規律や学習習慣の定着を図るため、小学3年生を対象とした学びっこ事業（放課後補充教室）を実施します。							
(11)外国語指導助手の活用により、本市独自の教育課程による小学校1年生からの英語教育の充実に努めます。							
(12)米原スポーツ大使である青山学院大学の原監督の講演やトレーニング方法を学ぶ機会を提供し、スポーツに取り組む気運を高めます。							
事業の実績							
(1)コミュニティ・スクール推進事業、学校支援地域本部事業							
保護者や地域の人々の持つ豊かで専門的な力を取り入れ、地域に根ざしたコミュニティ・スクール推進事業を全小中学校で進めました。また、全ての中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行いました。							
コミュニティ・スクール推進事業 4,145,742円							
学校支援地域本部事業 2,298,895円							
							
【ハローパーティー（春照小学校）】		【すもう大会（息長小学校）】		【お寺DeLIVE（柏原中学校）】			
(2)いじめ対策関係事業							
いじめ等対応支援員の配置やいじめ問題専門委員会等を開催し、いじめ問題の早期発見・早期対応策や未然防止に効果的な対策などを検討し、各校に発信しました。また、中学校生徒会によるSTOPいじめ生徒会フォーラムを開催し、生徒提案による啓発活動について協議し、共通実践につなげました。							
いじめ等対応支援員賃金（1人） 854,075円							
いじめ問題専門委員会（8回） 42,000円							
※いじめ事案報告件数141件（平成30年度：90件）							

事業の実績

- (3)特別支援教育支援委員会（8回）
 医師や専門的識見者等20人が委員となる特別支援教育支援委員会を開催し、障がいのある76人(平成30年度：65人)の幼児や児童生徒について調査、審議を行い、適切な就学先等について答申しました。
 委員報酬 85,000円
- (4)通級指導教室（かしわばら教室、まいばら教室、おおはら教室、だいとう教室）
 98人（平成30年度：86人）の対象児童生徒に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、児童生徒の個々の状況に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました。
 通級指導教室（事務費） 632,635円
- (5)特別支援教育総合推進事業
 市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の支援が必要な子どもたちへの支援方法などについて、相談員が延べ56回（平成30年度：81回）の巡回による助言・相談等を行いました。また、学生支援員により延べ65回（平成30年度：97回）の支援を行いました。
 就学相談等 18,081円
 学生支援員報償費 65,000円
- (6)小中学校非常勤講師派遣
 教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。
 小中学校非常勤講師賃金（23人） 12,062,722円
- (7)森林環境学習やまのこ事業
 森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、森林環境学習施設およびその周辺森林で体験型の学習を実施しました。
 バス借上料（小学校9校） 886,321円
 事前事後学習消耗品 120,000円
- (8)学校図書館司書配置事業
 児童生徒が図書に親しむことや、読み解く力の向上を目指し、学校図書館に図書館司書を12校に12人配置しました。
 臨時学校司書賃金 2,472,800円
- (9)スクール・サポート・スタッフの配置
 教職員の働き方改革を推進し、学校教育活動の充実に図るため、スクール・サポート・スタッフを4校に7人配置しました。
 スクール・サポート・スタッフ賃金 1,759,000円
- (10)学びっ子事業（放課後補充教室）
 基礎学力の確かな定着と生活困窮世帯の子どもの学習規律や学習習慣の定着を図るため、小学3年生を対象に、全ての小学校で週1回、年間22回を基準に実施しました。
 学びっ子指導員賃金等 1,672,654円
- (11)外国語指導助手配置事業
 市内の小中学校に外国語指導助手（6人）を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど英語学習の推進を図りました。
 外国語指導助手配置事業 27,592,436円
- (12)My原体育の日イベント事業
 スポーツに取り組む気運を高めるため、米原スポーツ大使の青山学院大学の原監督を招き、講演会を実施しました。（参加者264人）
 My原体育の日イベント事業 1,624,062円



【ALTの英語学習】

事業の成果

- (1)コミュニティ・スクール推進事業の取組により、保護者や地域住民と、子どもたちに付けた力を共有、熟議し、地域で子どもを育てる礎となりました。また、学校支援地域本部事業では、地域コーディネーターを各学校に配置し、それぞれの学校で行われているボランティア活動を組織的なものとするなど、地域とともにある学校づくりを推進することができました。
- (2)いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施等により、いじめの早期発見、未然防止や問題の解決につなげることができました。
- (3)特別支援教育支援委員会や相談員による巡回相談により、特別な支援が必要な児童生徒の個々の状況に応じた指導や支援を行いました。
- (4)中学校への専門教科を指導する非常勤講師の派遣、少人数指導、学びっ子事業を実施し、教員が児童生徒一人一人に接する時間を増やすなど、細やかで充実した生活指導や学習指導の実施に努め、学力向上につなげました。
- (5)学校司書の配置により、児童生徒が図書への親しむとともに、児童生徒の問題解決的な学習を支援し、学習センターとしての機能強化を図ることができました。
- (6)外国語指導助手の配置により、児童生徒の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。

評価

B

事業の課題と今後の取組

- ・コミュニティ・スクール推進事業や学校支援地域本部事業により、地域に根ざした学校づくりに努めました。今後は、学校支援ボランティアの裾野を広げるための取組を推進していく必要があります。
- ・いじめ対応支援員の配置やいじめ問題専門委員会の実施により、いじめの早期発見・早期対応を組織的に推進しました。今後はいじめの早期発見・早期対応への取組やいじめ対策への取組を更に強化していく必要があります。
- ・全小学校を英語科特例校とし、英語専科指導教員とともに低学年から英語に親しめる環境整備に努めました。今後もオールイングリッシュに近い英語科学習を意識するなど継続して取組を強化していきます。

事業番号		12	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	3 教育振興費		
事業名	継続	教育センター事業	主管課 教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	1,693,000	2,391,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	1,435,215	2,166,340	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	84.8	90.6	一般財源
		1,435,215	2,166,340
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
(1)幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員を対象にした研修を実施し、指導力の向上に努めます。 (2)児童生徒の学力状況調査を行い、その結果を踏まえてアクティブラーニングの手法を生かした授業改善を進めます。また、英語教育、ICT、郷土愛に関する調査研究を行います。			
事業の実績			
(1)幼稚園、認定こども園の保育士および保育幼稚園教諭を対象として、全職員研修1回、若手職員研修4回、就学前講座1回を実施しました。また、小中学校の教職員を対象として、全職員研修1回、教頭研修1回、特別支援教育講座、教育法規講座、授業力アップ講座、情報教育講座、生徒指導講座などの希望研修を10回実施しました。小中学校全員研修では225人の参加があり、満足度アンケートでは92.9%の肯定的回答を得ました。 教育センターおよび各部研修会講師謝礼 106,150円 (2)児童の学力状況調査を5月に実施し、その分析結果を基に、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。また、小学校から中学校への系統性を踏まえた学習活動を設定し、学びの円滑な接続を可能とする授業づくりを研究しました。また、小学校におけるプログラミング的思考を育む学習活動を調査研究してモデル指導案を作成し、研究発表大会の場で発表しました。 調査研究発表大会：令和2年2月13日 会場：市民交流プラザ 学力状況調査委託料 462,560円 (3)教育資料の作成に関する事業 教育センターだより「はぐくみ」、研究紀要「米原教育」、研究 論文集の発刊等 77,332円 (4)その他 各教育関係部会補助金および負担金 396,729円			
			【特別支援教育講座】
事業の成果			
(1)教師力の向上を目指して、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員に各種研修および講座を開催し、今日的課題に即した実践的な研修を行いました。 (2)学力状況調査は、基礎的な学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための基礎資料として活用することができました。 (3)教職員の専門性、指導力の向上を目標に、調査研究部会（3部会）を開催しました。部会は、英語教育、ICT、郷土愛に関する部会で、部員による調査研究を進め、成果を共有することができました。 (4)教育研究奨励事業として72点の研究論文（個人、グループ）の応募があり、教職員の自主的な教育研究を進めました。			評価 B
事業の課題と今後の取組			
・現場のニーズに応じた研修を実施し、受講者の満足度も高いことから、今後も継続した取組を行っていきます。今後は、ICTに関わる部会を中心にタブレット等機器活用促進のための取組を充実させていきます。 ・教職員の専門性、指導力の向上を目標に、調査研究部会を設け、調査研究を行い成果を発信しました。次年度以降も教育課題に応じた的確な主題で更に研究を深めていきます。 ・教職員の自主的な教育研究として、72点の教育研究論文が提出されました。次年度も同数程度の応募があるように各学校・園へ働き掛けていきます。			

事業番号		13	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	3 教育振興費		
事業名	継続 子どもサポート事業	主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	41,510,000	43,164,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	38,435,392	39,866,670	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	92.6	92.4	一般財源
		37,050,392	38,218,670
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容 市内小中学校における子どもケアサポーターやスクーリングケアサポーターの配置、適応指導教室の開設、教育相談の充実により、特別な支援が必要な児童生徒の個々の状況に応じた対応を行うとともに、不登校児童生徒の学校、学級復帰に向けた支援を行います。			
事業の実績 (1)学校への子どもケアサポーター派遣（子どもケアサポーター賃金 36,232,313円） 子どもケアサポーター22人を市内9小学校、6中学校に年間210日派遣しました。3人のスクーリングケアサポーターを小中学校に年間220回（880時間）派遣しました。 ①特別な支援が必要な児童生徒414人（平成30年度：363人）に個々の状況に応じた、きめ細かな指導支援を行いました。 ②不登校傾向のある児童生徒に対して、学力や生活力の向上に向けての支援を行いました。 (2)不登校児童生徒に対する適応指導教室の運営（指導員賃金 2,046,522円） 適応指導教室では、8人（年度当初4人途中入級4人）の入級児童生徒を2人の指導員が週5回、年間190回の指導を行いました。そのうち、3人が学級復帰しています。また、適応指導教室への通級希望者のため体験見学の機会を設けました。 (3)児童生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定員（臨床心理士）1人が4会場（セラピールーム：山東庁舎と3公民館）において、年間相談延べ回数33回、15件（平成30年度：55回、17件）の児童生徒や保護者、関係する教職員の相談を受けました。			
事業の成果 (1)特別な支援を必要とする児童生徒や不登校による別室登校の児童生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り、学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。 (2)不登校傾向の児童生徒の保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、適応指導教室への通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、適応指導教室における体験や見学は、児童生徒の自立を助けるための有効な活動となりました。 (3)児童生徒の不登校、うつ状態や学校不適応等の様々な心配について相談対応し、ひきこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の安定といった成果が見られました。			
事業の課題と今後の取組 ・特別な支援を必要とする児童生徒に対して個々の課題に応じたきめ細かな指導支援を行えるように努めました。しかしながら、支援員ができる講師の人材不足により、学校のニーズに応え切れていないこともあり、課題です。 ・適応指導教室に参加することで、別室登校等学校復帰につなげることができました。不登校児童生徒の心のケアを組織的に行う仕組みを整備するなど今後も継続した取組を強化していきます。			

評価

B

事業番号		14	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	1 学校管理費		
事業名	継続	小学校管理運営事業	主管課 教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち
		単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	60,125,000	64,087,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	58,259,473	61,424,737	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	96.9	95.8	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		小学校共済掛金保護者負担金 865,720円	
		小学校施設使用料 293,300円	
事業の目的および内容			
(1)市内9小学校の児童が安全安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行います。また、児童が健やかに学校生活を過ごせるように、児童および教職員の健康管理を行います。 (2)開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会および学校評議員から意見を求めることで、地域の意向を反映し、地域とともにある学校づくりを進めます。			
事業の実績			
(1)一般管理 小学校の児童が安全安心で質の高い教育を受け入れられるよう、適切な学校管理を行いました。 ①学校運営協議会委員(35人)、学校評議員報酬(9人) 440,000 円 ②光熱水費 24,321,919 円 ③通信運搬費 2,923,379 円 ④葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料 648,499 円 ⑤事務機器使用料 1,537,932 円 ⑥臨時学校校務員賃金 11,225,695 円 (正規学校校務員の配置のない小学校8校に配置) (2)健康管理 小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童および教職員の健康管理を行いました。 ①児童・教職員健康診断業務委託料 3,031,452 円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 3,923,700 円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,937,200 円 ④結核、心臓精密検査手数料 66,723 円 ⑤飲料水検査委託料(年1回) 92,340 円			
事業の成果			
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。 (2)児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を児童および教職員に実施し、健康管理に努めることができました。 (3)学校運営協議会研修を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校運営協議会および学校評議員から地域の声を的確に把握しながら、学校経営を行うことができました。			評価 B
事業の課題と今後の取組			
・学校運営協議会の在り方について、各校と協議して、全小学校でコミュニティスクール事業が推進できるように努めました。今後は更に地域と連携した学校経営ができるように学校支援ボランティアの育成を推進する必要があります。 ・小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童・教職員の健康管理に努めていますが、保健に携わる専門的な職員が不在です。			

事業番号		15	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	2 教育振興費		
事業名	継続 小学校教育振興事業	主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	56,402,000	46,037,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	55,934,578	45,055,428	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	99.2	97.9	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 3,200,000円	
事業の目的および内容			
(1)市内9小学校の児童に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動などの様々な体験活動の充実を図り、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。 (2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を目指して、より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。			
事業の実績			
(1)修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金 1,575,300 円 (2)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 ICT機器の充実のため、小学校3年生の全ての教室にテレビ型電子黒板1台を配備し、算数と理科のデジタル教科書とともに活用できるようにしました。また、理科備品については、国庫補助を受け充実を図りました。 理科教材備品 246,668 円 電子黒板、パソコン(14台) 8,798,328 円 デジタル教科書(2教科) 1,244,160 円 (3)各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。授業力向上を目的とした書画カメラ等の購入や先進地研修、体力向上を目的とした体育備品整備など、各校の実状や教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,801,966 円 (4)教科書の採択替えに係る教師用教科書・指導書の購入 令和2年度から使用する新しい教科書に係る教師用教科書と指導書を購入しました。 教師用教科書、指導書 27,860,406 円 (5)各小学校教育振興費 校内研究会、総合学習、スキー教室など講師謝礼 218,000 円 教材プリント用印刷用紙等 8,543,494 円			
事業の成果			
(1)教育活動を充実するために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、校長に一定の予算執行権限を設ける学校経営予算制度により、各学校の実状に応じた環境改善や、校長の思いに沿った学校経営を支援することができました。 (2)ICT機器の充実により、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進しました。			評価 B
事業の課題と今後の取組			
・修学旅行や校外活動に対する補助金を適切に執行し、教育活動の充実を図りました。今後さらに学校教育活動が充実したものとなるよう行事内容の工夫改善を呼びかけていきます。 ・計画的にICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進できるように電子黒板を中心に整備を進めてきました。GIGAスクール構想により1人1台タブレット型PCが整備されるため、今後は学校におけるICT機器の活用が課題となることから、今後は職員の研修参加等により、ICTの活用を進めていくことが必要です。今後も学校におけるICT機器の活用がさらに促進されるような働きかけを行っていきます。			

事業番号		16	
款	10 教育費	項	3 中学校費
目	1 学校管理費		
事業名	継続	中学校管理運営事業	主管課 教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	42,314,000	44,185,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	39,606,261	41,773,565	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	93.6	94.5	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		中学校共済掛金保護者負担金 415,840円	
		中学校施設使用料 544,600円	
事業の目的および内容			
(1)市内6中学校の生徒が安全安心で質の高い教育が受けられるよう、適切な学校管理を行います。また、子どもたちが健やかに学校生活を過ごせるよう、生徒および教職員の健康管理を行います。 (2)開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会および学校評議員から意見を求めることで、地域の意向を反映し、地域とともにある学校づくりを進めます。			
事業の実績			
(1)一般管理 中学校の生徒が安全安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。 ①学校運営協議会委員(19人)、学校評議員報酬(10人) 290,000 円 ②光熱水費 18,890,256 円 ③通信運搬費 1,823,992 円 ④葉刈り、剪定などの委託料 507,755 円 ⑤事務機器使用料 1,332,951 円 ⑥臨時学校校務員賃金 5,659,106 円 (正規学校校務員の配置のない中学校4校に配置) (2)健康管理 中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒および教職員の健康管理を行いました。 ①生徒、教職員健康診断業務委託料 2,218,428 円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 2,165,580 円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 938,460 円 ④結核、心臓精密検査手数料 83,441 円 ⑤飲料水検査委託料(年1回) 61,560 円			
事業の成果			
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。 (2)生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を生徒および教職員に実施し、健康管理に努めることができました。 (3)学校運営協議会研修を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校運営協議会および学校評議員から地域の声を的確に把握しながら、学校経営を行うことができました。			
事業の課題と今後の取組			
・学校運営協議会の在り方について、各校と協議して、全中学校でコミュニティスクール事業が推進できるように努めました。今後は更に地域と連携した学校経営ができるように学校支援ボランティアの育成を推進する必要があります。 ・中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒・教職員の健康管理に努めていますが、保健に携わる専門的な職員が不在です。			

評価

B

事業番号		17			
款	10 教育費	項	3 中学校費		
目	2 教育振興費				
事業名	継続 中学校教育振興事業	主管課	教育委員会 学校教育課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)		
予算額	27,639,000	44,537,000	国 費		
うち繰越	0	0	県 費		
決算額	26,669,212	42,228,966	市 債		
うち繰越	0	0	そ の 他		
執行率(%)	96.5	94.8	一般財源		
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)			
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 6,853,000円			
事業の目的および内容					
(1)市内6中学校の生徒に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動等の体験活動、部活動の公式大会参加への補助等を行い、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。 (2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成に向けた学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。					
事業の実績					
(1)修学旅行、校外活動および部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金、生徒派遣補助金 6,461,660 円 (2)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。ICT機器の充実のため、テレビ型電子黒板を中学校1年生の未設置12学級に配置し、数学、理科、英語のデジタル教科書を配備しました。また、理科備品については、国庫補助を受け、充実を図りました。 理科教材備品 69,000 円 電子黒板、パソコン(12台) 7,541,424 円 デジタル教科書(3教科) 1,283,040 円 (3)各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。図書館の活用のための図書館システムの導入など、各学校独自の取組や、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,108,521 円 (4)各中学校教育振興費 総合学習、校内研究会など講師謝礼 86,200 円 教材プリント用印刷用紙等 5,952,877 円 生徒用図書 985,024 円 (5)その他主な経費 部活動指導員 839,700 円 自尊感情・学びの礎育成プロジェクト 280,000 円 (米原、河南学区) 中学2年生職場体験活動キャリア教育経費 579,238 円					
			 【ICTを活用した授業】		
			 【職場体験学習(伊吹山中学校)】		
事業の成果					
(1)教育活動を充実するために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。特に、部活動では、全国大会出場などの成果が見られました。 また、校長に一定の予算執行権限を設ける学校経営予算制度により、各学校の実状に応じた環境改善や、校長の思いに沿った学校経営を支援することができました。 (2)ICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進しました。			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> </table>	評価	B
評価					
B					
事業の課題と今後の取組					
・伊吹山中学校サッカー部男子チーム全国優勝、女子チーム全国準優勝を筆頭に、各校の部活動で日頃の練習の成果を発揮し、優秀な成績を収めてくれました。今後も継続して、支援を行っていきます。 ・計画的にICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進できるように電子黒板を中心に整備を進めてきました。GIGAスクール構想により1人1台タブレット型PCが整備されることから、今後は学校におけるICT機器の活用が課題となることから、今後は職員の研修参加等により、ICTの活用を進めていくことが必要です。今後も学校におけるICT機器の活用が更に促進されるような働き掛けを行っていきます。					

事業番号		18	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	社会教育総務事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち
		単位施策	家庭・地域の教育力の強化
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	895,000	864,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	686,765	768,778	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	76.7	89.0	一般財源
		686,765	768,778
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う、「まいふあみカフェ」の中止、女性の会の一部事業中止により事業費を減額したため。			
事業の目的および内容			
(1)社会教育行政に対して専門家や市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。 (2)家庭の教育力向上のため、「まいふあみカフェ」を開催するほか、広報まいばら、伊吹山テレビなどを活用し市全域に啓発を行います。 (3)市民の生涯学習活動を支援するとともに、学んだ成果を生かして活動できる場の提供を行い、地域人材(講師)と市民をつなぐコーディネーターの役割を果たします。			
事業の実績			
(1)社会教育委員会議(社会教育委員 12人) 報酬 240,000円 市の社会教育事業および生涯学習事業の課題検討を行い、事業の質的向上に努めました。 ①定例会議の開催(4回) テーマ:コミュニティスクール 取り組むテーマの検討を行い、コミュニティスクールの現状と課題を議論しました。 ②本市委員と他市委員の見解交換会や共同研修を行いました。			
(2)家庭の教育力向上事業 子育て世帯の集まる場所に出向いて、「まいふあみカフェ」を開催し、子育てに関する悩みや疑問をワークショップ等により親同士が情報交換できる交流の場を設けました。 第1回 令和元年6月21日 参加者26人 第2回 令和元年10月10日 参加者14人 第3回、第4回 中止		 【まいふあみカフェ】	
(3)出前講座事業 市民の依頼に応じて市職員等が講師となり、市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報について学ぶ機会を提供しました。 利用実績:236回(平成30年度246回 対前年度増減率▲4.1%) メニュー数:148講座			
(4)まなびサポーター事業 学んだ成果を生かし、市民が指導者(支援者)としてまちづくりや人づくりに取り組む制度の運用を行いました。 まなびサポーター登録総数:164人 利用実績:70回(平成30年度81回 対前年度増減率▲13.6%)			
(5)女性の会活動事業補助 243,192円 女性の社会活動への参加推進を図るため、女性の会に対し、事業費補助を行いました。			
事業の成果			評価
(1)社会教育委員会議では、今年度から新たなテーマを選定し、コミュニティスクールの現状と課題について議論し、地域と学校の関わりや次世代の育成などの調査研究を行いました。 (2)家庭の教育力向上事業では、「まいふあみカフェ」を実施し、子育て世帯に対して家庭の教育力向上に向けた啓発を行うことができました。 (3)出前講座、まなびサポーター事業を展開し、市民の学びの機会の充実を図ることができました。 (4)女性の会の活動を支援することで、女性の社会活動への参加、地域でのまちづくり活動の推進を図ることができました。			C
事業の課題と今後の取組			
市民の学びの機会の充実を図るため、出前講座のメニューの更新等を行い、新たに魅力ある講座を取り入れます。			

事業番号		19	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	人権教育推進事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	一人一人が尊重され平和を大切にするまち	
	単位施策	人権文化・人権教育の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円) 元年度 30年度
予算額	1,377,000	1,445,000	国 費 0 0
うち繰越	0	0	県 費 0 0
決算額	1,306,562	1,227,168	市 債 0 0
うち繰越	0	0	そ の 他 221,000 243,000
執行率(%)	94.9	84.9	一般財源 1,085,562 984,168
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		人権教育推進協議会等事業助成金 221,000円	
事業の目的および内容			
(1)人権尊重、人権擁護が確立された明るく住み良いまちづくりの実現を目指し、人権教育推進協議会と連携しながら、各種研修会、人権講座を実施します。 (2)地域の人権課題の早期解決のため、ハートフル・フォーラム（地区別懇談会）を推進します。			
事業の実績			
(1)人権教育推進協議会の活動支援および事業推進を行いました。 ①活動事業費に対する補助 1,287,722円 ②地域人権リーダー研修会 ハートフル・フォーラムの説明会を兼ね、令和元年度のテーマである「女性の人権」に沿った内容の研修会を開催しました。 開催日：令和元年7月3日 場所：市民交流プラザ 参加人数：263人（平成30年度 238人） 内容：ハートフル・フォーラムの実施方法の説明、令和元年度テーマに関する人権啓発教材視聴、人権意識調査（平成29年度）報告書の概要について説明 ③きらめき人権講座（4回シリーズ）の開催 会場：人権総合センター			
開催日	テーマ	講師	参加人数
7月19日	私たちと人権 ～互いに笑顔で暮らせるまちづくり～	人権ワークショップ協会 白井世話人	61人
8月27日	部落差別解消法 ～隠された歴史の中で～	全国隣保館連絡協議会 中尾事務局長	61人
9月18日	多文化共生の地域づくり ～地域のマイノリティとの協働～	名古屋外国語大学 吉富教授	61人
10月17日	だれもがその人らしく生きる ～LGBTの人権～	ソフィオ法律事務所 三輪弁護士	65人
④ハートフル・フォーラムの自治会での開催 令和元年度推奨テーマ 「女性の人権」 ハートフル・フォーラムが各自治会で開催されました。 82自治会で開催（開催率：76.6%） 2,729人（平成30年度 78自治会、2,377人） ⑤人権を考えるつどい（人権政策課と共催） テーマ：LGBTを理解する～日本社会の中でマイノリティであること～ 講師：LGBTアクティビスト 東 小雪さん 開催日：令和元年11月30日 場所：市民交流プラザ 参加人数：196人（平成30年度 375人）			
(2)同和教育推進本部研修会 差別解消三法の基礎知識を身に付けるため、市職員、教職員を対象に研修会を開催しました。 テーマ：部落差別の現実学ぶ 講師：（公財）滋賀県人権センター 樋口孔司さん 開催日：令和2年2月17日 場所：市民交流プラザ 参加人数：25人（平成30年度 40人）			
事業の成果			評価
(1)地域人権リーダー研修会やきらめき人権講座等を開催し、特に女性の人権や多様性への理解など人権意識の向上に資することができ、それぞれの立場で活躍する人権リーダーの育成を行うことができました。 (2)ハートフル・フォーラムを推進し、市民が主体となる人権学習の機会を提供することができました。			C
事業の課題と今後の取組			
ハートフル・フォーラムの実施方法の工夫するとともに、各自治会での開催を促す必要があります。身近な課題や問題をテーマとした学習会や人権落語、出前講座を活用した学習方法を提案していきます。			

事業番号		20	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	地域人材育成事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	744,000	841,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	382,629	574,706	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	51.4	68.3	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、予定していた講義を中止または延期としたため。		社会教育事業関係受講料 200,000円	
事業の目的および内容			
ルッチまちづくり大学は、「地域に根ざす。幸せになる。」をコアコンセプトに人を育てる市民カレッジです。市民の自発的に学び続ける意欲に応え、楽しく学びながら、自ら考え、話し合い、それを踏まえて力強く行動できる“人材”を3年間で育成します。 また、市民立大学（地域の教育の主体者として市民がつくる学びの場という意味）を目指し、卒業生と行政が対等な立場で協働運営するルッチみらい会議で講座の内容等を検討し、多様な主体と連携しながら事業効果を高めていきます。			
事業の実績			
(1)ルッチまちづくり大学（9期生）【21回開講（平成30年度22回）】 将来の仲間づくりを目指したグループ学習方式の事例研究と、現場調査やイベント参画などのフィールドワークをバランス良く配置し、効果的なカリキュラムを展開しました。 【9期生（20人）：2年目】 (2)公開講座の開催【4回開催（平成30年度5回）】 ルッチまちづくり大学の広報、成果の市民還元を目的に開催しました。 各自の気づきを共有する機会を取り入れること、多様な主体と共催することを意識しました。			
開催日	テーマ	講師	参加人数
6月18日	選ばれ続ける地域とは ～非日常から異日常の観光～	JTIC.SWISS 山田代表	37人
8月3日	もっと使いやすい公民館に向けて	生涯学習課職員	21人
9月24日	10年後の彼を見つめた就労支援 ～未来への下ごしらえ～	東近江圏域働き・暮らし 応援センター 野々村センター 長	22人
12月21日	人と人とのつながりが紡ぎだす安全・安心	同志社大学 立木教授	12人
(3)卒業生の活動支援、ネットワーク強化 卒業生を中心とした市民協働事業団体「MatteMatteまいばら委員会」を支援し、ネットワークの強化を図りました。			
事業の成果			評価 C
(1)多様な講師による講義で、自発的な学習や実践活動を促すことができました。 (2)フィールドワークを通じて、地域を知り、様々な主体との連携、学生同士の連携が進展しました。 (3)公開講座は、成果を市民に還元し、まちづくりの機運を高めることにつながりました。 中でも、新たな公民館の目指す姿について討論した内容は、新たに制定した学びあいステーション条例に反映することができました。			
事業の課題と今後の取組			
卒業生の活動に対する相談支援や卒業生同士のネットワークの強化を図り、卒業生のフィールドワークの持続可能性を高めて行きます。			

事業番号		21	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	文化のまちづくり事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち	
	単位施策	文化・芸術の振興	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	4,733,000	4,252,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	4,377,832	4,090,608	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	92.5	96.2	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 4,369,000円	
事業の目的および内容			
(1)芸術を創造し、鑑賞する喜びを享受し、薫り高い文化のまちづくりを目指して、芸術展覧会を開催します。			
(2)市民の芸術文化の振興を図るため、文化協会の活動事業に対する支援を行います。			
事業の実績			
(1)芸術展覧会の開催		2,112,976円	
美術部門展覧会 会期：令和元年5月11日～19日 場所：近江はにわ館 出品数：絵画部門 93点（うち入選数56点） 彫刻・工芸部門 30点（うち入選数30点） 書部門 35点（うち入選数30点） 写真部門 111点（うち入選数65点） 合 計 269点（平成30年度 247点）			
(2)文化協会事業補助金		2,256,856円	
①米原市文化協会 会員数：896人、団体数：74団体（令和2年3月31日現在） （平成30年度 会員数：941人、団体数：76団体） ②文化祭、作品展の開催 4支部の活動に対する補助を行い、作品展や文化祭、盆梅展などの企画展を開催しました。 ③部会交流事業 団体間の横連携を図り、文化活動の活性化を図るために、多様なサークルが合同で行う発表会「小さな発表会」を開催しました。			
			
事業の成果			
(1)芸術展覧会を芸術協会に委託し、協会の組織化と自立化を促しました。開催時期を春季に変更し、出品数の増加を図った結果、総出品数は昨年度を上回り、入選率も約7割とレベルの高い展覧会となりました。			評価 C
(2)文化協会では、4支部（山東支部、近江支部、米原支部、伊吹支部）での文化祭の開催や作品展の交流事業などを行い、文化振興に貢献することができました。			
事業の課題と今後の取組			
芸術展覧会は、出品数は増加傾向にありますが、市民の出品数は横ばい状況にあります。市民の創作意欲を高めるため、魅力ある展覧会の開催に努めます。 文化協会は、会員数の減少や高齢化が進んでいます。今後協会の活動に対する情報の発信等、会員数の増加や組織の活性化に向けた支援を行い、文化の振興に努めます。			

事業番号		22					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費		
事業名		継続	市民交流プラザ管理運営事業		主管課	教育委員会 生涯学習課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
		基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち				
		単位施策	文化・芸術の振興				
事業費(円)		元年度	30年度	財源内訳(円)		元年度	30年度
予算額		50,547,000	52,071,000	国 費		0	0
うち繰越		0		県 費		0	0
決算額		48,167,152	50,544,414	市 債		0	0
うち繰越		0		そ の 他		10,150,738	10,847,412
執行率(%)		95.3	97.1	一般財源		38,016,414	39,697,002
執行率80%以下の理由(元年度)				その他の内訳(元年度)			
				市民交流プラザ施設等使用料 3,299,000 円			
				市民交流プラザラウンジ共益費 120,000 円			
				市民交流プラザ管理経費負担金 4,544,645 円			
				市民交流プラザ自主事業入場料 2,001,420 円			
				私用消耗品・印刷等諸収入 139,673 円			
				りれーピアノ参加者負担金 46,000 円			
事業の目的および内容							
(1) 市民交流プラザ（ルッチプラザ）は、市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。							
(2) ベルホール310は、県内屈指の音楽専門ホールという特徴から、文化情報の発信拠点として重要な地域資源であるという認識の下、地域の音楽文化の向上を目指し、中学生吹奏楽部ワークショップ、りれーピアノ発表会や自主公演などを企画、実施します。							
(3) 市民交流プラザの施設や設備の適切な維持管理に努め、経年劣化に伴う設備の改修や修繕を行い、利用者の利便性の向上を図ります。							
事業の実績							
市民交流プラザの管理運営および自主企画事業を実施しました。							
(1) 管理運営							
①臨時職員賃金（3人分）				4,538,880 円			
②燃料費、光熱水費（電気、ガス、水道、下水道代）				15,938,368 円			
③管理委託料（清掃、機械設備保守点検、夜間管理代行）				11,680,765 円			
④公演委託料				6,504,568 円			
⑤施設修繕費（非常用発電機、ワイヤレスマイク受信機等）				2,788,266 円			
⑥その他（通信運搬費、使用料、補助金等）				6,716,305 円			
(2) 自主事業（公演事業）							
①年間15回の事業実施（平成30年度15回）							
入場者数 3,475人（平成30年度3,282人 対前年度増減率+5.9%）							
②入場料収入 2,001,420円（平成30年度2,564,534円）							
No.	開催日	イベント名					入場者数(人)
1	4月20日	おうみ民話ものがたりと日本の歌					180
2	5月12日	もったいないお婆さんがやってくる					284
3	5月19日	あのことろVol5					238
4	7月7日	カーニバルッチ					450
5	7月10日	ルッチシネマ					34
6	7月20日	奥華子コンサート					320
7	8月10日、11日	第38回 りれーピアノ発表会					125
8	8月22日～24日	中学生吹奏楽部ワークショップ					212
9	9月8日	ガッキーとゆかいな仲間たち					140
10	10月6日	ルッチ寄席					96
11	10月26日	日本の歌・昭和の歌					214
12	11月16日	ブレーメンの音楽隊(ホールサポーター企画事業)					289
13	11月24日	仲道郁代ピアノコンサート					230

事業の実績

14	12月7日	小野リサコンサート	328
15	1月26日	エンジョイ・ザ・クラシック	335
—	3月20日	丘みどりコンサート	中止
—	3月27日、28日	第39回 りれーピアノ発表会	中止

(3) 貸館事業

令和元年度ホール利用件数（貸館）218回 利用者数（貸館）16,591人
（平成30年度ホール利用件数（貸館）191回 利用者数（貸館）17,057人 対前年度増減率▲2.7%）

(4) ベルホール310、スタジオ稼働率

	開館 日数	ホール		スタジオ	
		稼働日数	稼働率(%)	稼働日数	稼働率(%)
4月	26	17	65.4	22	84.6
5月	27	21	77.8	19	70.4
6月	26	25	96.2	18	69.2
7月	26	24	92.3	19	73.1
8月	27	14	51.9	19	70.4
9月	25	15	60.0	20	80.0
10月	27	20	74.1	22	81.5
11月	26	22	84.6	19	73.1
12月	24	18	75.0	19	79.2
1月	24	15	62.5	17	70.8
2月	25	17	68.0	20	80.0
3月	26	10	38.5	9	34.6
合計	309	218	70.6	223	72.2
平成30年度	308	191	62.0	122	39.6

(5) ベルホール310サポーターミーティング活動事業補助 700,000円

- ①自主事業公演の運営協力
- ②サポーター企画、プレーメンの音楽隊の実施
- ③カーニバルッチ企画運営協力
（7月7日に多文化共生を目的としたイベントとして実施）

(6) カーニバルッチ開催 参加者 約450人

多文化共生協会との共催で実施し、多国籍屋台には多数の出店がありました。また、サンバ隊のダンスや和太鼓の演奏などを実施しました。迫力あるニュージーランドのカパハカダンスも披露されました。



【カパハカダンス】

(7) 中学生吹奏学部ワークショップ開催 参加者 212人 799,988円

プロの指導者による実演指導により技術力を養うとともに、指導者との共演により本物の音楽に身近に触れ、演奏の素晴らしさを体験する機会を提供しました。



【プレーメンの音楽隊】

事業の成果

評価

- (1) 共催事業を拡充して市予算の負担額を抑えながら、年間15回の公演事業を行いました。また、例年定期的に実施している事業が定着してきたことによって、利用者に広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができました。また、りれーピアノや中学生吹奏楽部ワークショップ事業継続の結果として、ピアノの練習による平日利用が定着しました。
- (2) 運営に当たっては、ベルホール310サポーターミーティング組織と協働して実施することができました。市民交流プラザのカーニバルッチでは、サポーターミーティング以外に多文化共生協会と共催で実施したことで、各方面からの参画を得て開催することができ、多国籍にわたり親子連れや地域の子どもたちが来館して、市民交流の場を創出することができました。
- (3) 施設の突発的な修繕に対して迅速に対応したことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。

C

事業の課題と今後の取組

施設が老朽化しており、計画的な施設・設備の改修・更新を行います。市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。

事業番号		23	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びの場づくりの推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	58,392,000	112,260,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	57,118,870	111,664,682	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	97.8	99.5	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
伊吹薬草の里文化センターは、市民の生涯学習やサークル活動を支援するために、研修室、図書室、薬草風呂、薬草園、ジョイホールなどを備えた施設です。市民がより利用しやすい施設を目指し、指定管理者による施設の運営を行います。			
事業の実績			
(1) 指定管理者により、施設の管理および各種事業の展開を行いました。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、講座および薬草風呂の営業中止や、貸館利用の自粛により利用者数が減少しました。 伊吹薬草の里文化センター指定管理委託料 52,624,000円 指定管理者：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 利用者数：53,309人(平成30年度 53,592人 対前年度増減率▲0.5%) うち ホール：5,713人(平成30年度 6,190人 対前年度増減率▲7.7%) galleryかくとだに：2,965人(平成30年度 3,777人 対前年度増減率▲21.5%) 公民館講座：35種類、延べ69回開講 ホール事業：コンサート事業、キッズフェス ほか 薬草の里フェス、夏まつり息吹の奏 ほか 薬草風呂、薬草園、いぶき図書室の管理運営 薬草風呂利用者：23,885人(平成30年度 27,965人 対前年度増減率▲14.6%)			
(2) 施設設備修繕工事設計事業 照明設備改修工事設計業務 2,530,000 円			
(3) 施設改修事業 漏水修繕工事 721,600 円 ブレーカ改修工事外8件 1,175,822 円			
事業の成果			評価
(1) 地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業をはじめ、地域の実情、時代のニーズを的確に捉えた幅広い事業を実施することで、地域文化の振興や生涯学習の機会を提供することができました。 (2) 施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。			C
事業の課題と今後の取組			
施設が老朽化しており、計画的な施設・設備の改修・更新を行います。 令和3年度から学びあいステーションに変更し、より使いやすい、親しみやすい施設運営を行っていきます。ギャラリーかくとだに等において、薬草に因んだ事業を行うなど、施設の機能を生かした取組を展開していきます。			

事業番号		24	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業	主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	806,000	901,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	698,603	805,338	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	86.7	89.4	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
新成人の明るい未来と新しい門出を祝福する場として成人式を開催します。			
事業の実績			
新成人の新しい門出を祝福する場として、また感謝の気持ちを伝え今後の人生への希望や決意とともに、大人としての責任感や社会貢献について認識してもらう場として、成人式を開催しました。 新成人者の有志により実行委員会を組織し、企画運営を行いました。オープニングアトラクション、二十歳のメッセージ、思い出アルバム、交歓会等の企画について、新成人が主体となってアイディアを出し合いながら、自分たちの成人式を創り上げました。 実行委員会の開催 3回開催 実行委員21人 成人式の開催 日時：令和2年1月12日 場所：県立文化産業交流会館 対象者数：426人（平成30年度443人 対前年度増減率▲3.8%） 参加人数：333人（平成30年度352人 対前年度増減率▲5.4%） 参 加 率：78.2%（平成30年度79.5% 対前年度増減▲1.3ポイント） 式典内容 1 オープニングアトラクション （伊吹高校の箏曲部による演奏） 2 市長式辞 3 来賓祝辞 4 二十歳のメッセージ（新成人代表） 5 思い出アルバムの上映 6 記念写真撮影 7 交歓会			
事業の成果			評価
(1) 新成人の有志による企画会議を行い、新成人主体の成人式を開催することができました。広報案内を多岐に行うことで、市外の米原市出身の新成人にも多数参加してもらうことができました。 (2) 手話通訳、要約筆記、託児支援や事前の出欠報告はがきによる必要支援の把握など、様々な合理的配慮を行い、誰もが参加しやすい式典運営を行うことができました。			C
事業の課題と今後の取組			
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、開催場所や開催方法等の検討を行います。			

事業番号	25										
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 公民館費						
事業名	継続	公民館管理運営事業			主管課 教育委員会 生涯学習課						
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり									
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち									
	単位施策	学びの場づくりの推進									
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)	元年度	30年度						
予算額	102,660,000	96,727,000	国 費	0	0						
うち繰越	0	0	県 費	0	0						
決算額	102,411,135	96,318,609	市 債	0	0						
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0						
執行率(%)	99.8	99.6	一般財源	102,411,135	96,318,609						
執行率80%以下の理由(元年度)			その他の内訳(元年度)								
事業の目的および内容											
(1)公民館は、地域住民の身近な学びの場として、生涯を通じて学び続ける意欲に応え、地域づくりやコミュニティ活動の拠点としての役割も果たしながら、地域の活性化を図っています。 (2)指定管理者制度を導入し、地域性を生かした使いやすい施設とするため、地域に密着した団体に管理運営を委託します。											
事業の実績											
(1)指定管理者により、各施設の管理および各種事業の展開を行いました。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、講座の中止や貸館利用の自粛により利用者が減少しました。 ①米原公民館 指定管理委託料 29,848,000円 指定管理者：NPO法人FIELD 利用者数：40,651人（平成30年度 46,155人 対前年度増減率▲11.9%） 事業：こども造形教室、民俗学講座、古地図講座、認知症予防講座、着物着付け教室、学習講座、折り紙教室 ほか 【実績】講座：33種類 延べ330回開講 ②近江公民館 指定管理委託料 35,738,000円 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 利用者数：34,567人（平成30年度 40,854人 対前年度増減率▲15.4%） 事業：和太鼓教室、アートフラワー教室、フラワーアレンジメント講座、筆ペン講座、学力ステップアップ講座、地域の伝統料理教室、伝承料理教室 ほか 【実績】講座：13種類 延べ275回開講 ③山東公民館 指定管理委託料 30,194,000円 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ 利用者数：17,698人（平成30年度19,174人 対前年度増減率 ▲7.7%） 事業：子ども将棋教室、学遊館、いけ花教室、料理教室、パソコン講座 ほか 【実績】講座：14種類 延べ266回開講											
(2)施設設備修繕 6,451,914円 施設や設備等の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設としました。 <table border="0"> <tr> <td>米原公民館防水工事</td> <td>2,964,500円</td> </tr> <tr> <td>山東公民館照明設備改修工事</td> <td>1,698,840円</td> </tr> <tr> <td>玄関自動扉修繕外9件</td> <td>1,788,574円</td> </tr> </table>						米原公民館防水工事	2,964,500円	山東公民館照明設備改修工事	1,698,840円	玄関自動扉修繕外9件	1,788,574円
米原公民館防水工事	2,964,500円										
山東公民館照明設備改修工事	1,698,840円										
玄関自動扉修繕外9件	1,788,574円										
 【米原公民館防水工事】											
事業の成果											
(1)地域の団体や事業者など多様な主体と連携しながら、ニーズを的確に捉え、各公民館の特色を生かした学習機会を提供することができました。 (2)青少年、次代を担う若者たち、子育て世代、現役世代など多様な世代にアプローチする事業を多く展開できました。 (3)指定管理者による施設管理運営により、効率的で効果的な運営ができました。 (4)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。					評価 C						
事業の課題と今後の取組											
施設が老朽化しており、計画的な施設・設備の改修・更新を行います。 令和3年度から学びあいステーションに変更し、各施設の機能を生かした取組を展開するなど、より使いやすい、親しみやすい施設運営を行っていきます。											

事業番号		26	
款	10 教育費	項	6 保健体育費
目	2 体育施設費		
事業名	継続 体育施設管理運営事業	主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち	
	単位施策	スポーツを身近に楽しめる環境づくり	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	66,385,000	588,824,000	国 費
うち繰越	0	34,000,000	県 費
決算額	64,952,617	587,134,047	市 債
うち繰越	0	33,953,040	そ の 他
執行率(%)	97.8	99.7	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		ウッドピアいぶき使用料 40,800 円	
		番場多目的広場使用料 13,300 円	
事業の目的および内容			
誰もが身近で安心、安全にスポーツができるよう、市内体育施設の維持管理に努めます。			
事業の実績			
(1)指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。			
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、貸館利用の自粛により利用者数が減少しました。			
①山東グラウンド、市民体育館：NPO法人カモンスポーツクラブ 3,025,000 円			
グラウンド 12,286 人 (平成30年度 14,984 人 対前年度増減率 ▲ 18.0 %)			
体育館 13,227 人 (平成30年度 13,458 人 対前年度増減率 ▲ 1.7 %)			
②すぱーく米原、米原野球場、息郷体育館：NPO法人MOSスポーツクラブ 9,174,000 円			
すぱーく米原 13,193 人 (平成30年度 14,520 人 対前年度増減率 ▲ 9.1 %)			
野球場 3,116 人 (平成30年度 3,372 人 対前年度増減率 ▲ 7.6 %)			
体育館 909 人 (平成30年度 1,199 人 対前年度増減率 ▲ 24.2 %)			
③近江グラウンド：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 1,042,000 円			
グラウンド 5,739 人 (平成30年度 6,807 人 対前年度増減率 ▲ 15.7 %)			
④双葉総合体育館：一般社団法人近江スポーツクラブ 12,266,056 円			
体育館 18,393 人 (平成30年度 19,656 人 対前年度増減率 ▲ 6.4 %)			
⑤山東B&G海洋センター：株式会社スポーツプラザ報徳 16,438,000 円			
プール 34,452 人 (平成30年度 31,944 人 対前年度増減率 7.9 %)			
体育館 7,740 人 (平成30年度 8,433 人 対前年度増減率 ▲ 8.2 %)			
⑥伊吹B&G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、伊吹テニスコート 15,401,000 円			
：公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団			
プール 3,188 人 (平成30年度 3,450 人 対前年度増減率 ▲ 7.6 %)			
第1グラウンド 29,839 人 (平成30年度 2,195 人 対前年度増減率 1259.4 %)			
第2グラウンド 10,844 人 (平成30年度 14,824 人 対前年度増減率 ▲ 26.8 %)			
テニスコート 1,968 人 (平成30年度 1,850 人 対前年度増減率 6.4 %)			
(2)社会体育施設の維持管理に必要な業務を行いました。			
①施設維持管理委託料(河南中グラウンド、番場多目的広場等) 1,008,347 円			
番場多目的広場 404 人 (平成30年度 93 人 対前年度増減率 334.4 %)			
②修繕費(山東B&Gプール上屋シート張替、近江グラウンド照明修繕ほか) 3,559,437 円			
事業の成果			評価
(1)指定管理者による体育施設の適切な維持管理を行い、多様な市民ニーズに対応したスポーツ活動の場を提供することにより、スポーツを通じた市民の相互交流が図れました。			C
(2)必要な修繕を行い、市民が安全に安心してスポーツや運動に親しむ環境の維持に努めました。			
(3)伊吹第1グラウンドの本格稼働により、全日本中学生ホッケー選手権大会開催など、多くの人の利用があり、「ホッケーのまちまいばら」の推進につながりました。			
事業の課題と今後の取組			
施設が老朽化しており、誰もが身近で安心、安全にスポーツができる環境を維持するためにも、施設ごとに状況を把握し、適切な補修・改修を行い、長寿命化に努めます。			

事業番号		27				
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	3 体育振興費	
事業名	継続	スポーツ推進事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち				
	単位施策	地域スポーツ活動の推進				
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)	元年度	30年度	
予算額	39,425,000	39,840,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	37,921,948	36,964,195	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	6,507,000	4,430,000	
執行率(%)	96.2	92.8	一般財源	31,414,948	32,534,195	
執行率80%以下の理由(元年度)			その他の内訳(元年度)			
			社会体育事業参加料 11,000円			
			地域の絆でまちづくり基金繰入金 1,810,000円			
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 4,686,000円			
事業の目的および内容						
(1)多様化する市民のスポーツニーズを踏まえ、生涯スポーツおよび競技スポーツの推進を図るとともに、2024年に開催される国民スポーツ大会に向け、選手や指導者の育成を行い、スポーツを通じたコミュニティを形成し、「元気と希望あふれるまちづくり」に取り組みます。						
(2)東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド国との交流を進めるとともに、スポーツ国際交流員（SEA）を配置し、英語とスポーツを通じた国際交流を図ります。						
事業の実績						
(1)スポーツ推進委員に地域での出前講座や市内スポーツイベントの企画運営を担っていただきました。また、資質向上のため、各種研修会へ参加いただきました。 スポーツ推進委員報酬（委員数：32人／新規1人） 1,206,500円						
【主な活動内容】						
①体力測定会 令和2年3月7日 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止						
②出前講座（6回） 総参加者数：302人						
③夢高原かつとび伊吹・いきいき健康ウォークの企画、運営、準備等						
④スポーツ協会、スポーツ少年団主催事業への協力						
⑤全国、近畿、滋賀県スポーツ推進委員研修会への参加						
⑥企画・運営等会議（6回）						
(2)全国大会や国際大会に出場する市内選手に対して、激励金を交付し活動支援を行いました。						
①国際大会出場者 10人 1,177,000円						
②全国大会等出場者 200人						
(3)市民のスポーツ推進を図るため、各種スポーツ団体へ補助金を交付し活動支援を行いました。						
①市スポーツ協会（加盟団体数：18団体）、市民大会：11競技、総参加者：778人 2,962,935円						
②市スポーツ少年団（加盟数：18単位団、団員：424人、指導者：102人） 2,388,853円						
③総合型地域スポーツクラブ（市内4クラブ） 1,810,000円						
④（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 16,160,000円						
名称		令和元年度		平成30年度		
		事業数	参加者(人)	事業数	参加者(人)	
いぶきスポーツクラブ		32	5,159	27	5,151	
カモンスポーツクラブ		30	8,327	31	8,176	
MOSスポーツクラブ		23	4,016	28	3,664	
近江スポーツクラブ		18	4,345	20	4,393	
（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団		28	3,348	27	2,321	

事業の実績

- (4)本市の特性を生かしたスポーツイベントの支援を行いました。
- ①夢高原かっ飛び伊吹2019 1,135,210円
参加者:1,209人、完走者:1,096人(平成30年度 参加者:1,161人、完走者:943人)
 - ②西日本小学生中学生6人制ホッケー選手権大会 100,000円
小学生49チーム、中学生41チーム(平成30年度 小学生46チーム、中学生46チーム)
 - ③いきいき健康ウォーク2019 49,223円
コース:中山道(河南小学校〜米原駅) 参加者:128人(平成30年度 134人)
 - ④全日本中学生ホッケー選手権大会 2,500,000円
男子24チーム 優勝 伊吹山中学校男子ホッケー部
女子24チーム 準優勝 伊吹山・虎姫中学校女子ホッケー部
- (5)スポーツ国際交流員(SEA)を小学校や総合型地域スポーツクラブに派遣し、スポーツ活動のアシスタントのほか、子どもたちが英会話に親しむ機会を創出しました。
スポーツ国際交流員(SEA)賞金 3,844,695円
- (6)東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド国との交流推進のため、ニュージーランド代表ホッケーチームのオリンピック出場応援メッセージの寄せ書きを子どもたちから募り、代表チームヘッドコーチに贈呈しました。
また、代表チームヘッドコーチおよび同国ホッケー協会代表らの合宿会場の視察を受けて、オリンピック事前合宿に関する覚書を締結しました。 1,331,084円



【応援メッセージ寄せ書き】



【応援メッセージユニホーム贈呈】



【覚書締結式】

- (7)2024年国民スポーツ大会ホッケー競技開催を見据えて、ホッケーの普及および認知度向上に取り組みました。
- ①ホッケー競技普及推進 430,000円
小学校でのクラブ活動と連携したホッケースクール 29回
スポーツクラブと連携したホッケー教室 2回
未経験者等を対象にしたホッケー教室 51回
スキルアップスクール 25回
 - ②ホッケー競技強化事業 276,770円
トップ指導者(日本ホッケー協会公認指導者等)による指導講習会 3回
ホッケースクール(ホッケー普及事業のフォローアップ) 21回
- (8)ワールドマスターズゲームズ2021関西ホッケー競技の開催に向けて、県・市ホッケー協会、商工会、観光協会と行政で構成する実行委員会を設立し、開催準備業務に取りかかりました。また、国内マスターズ大会で参加PRを行いました。 200,000円

事業の成果

- (1)市民が身近にスポーツを楽しめる場である総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、各地区体育振興会などが開催するスポーツ活動を支援することにより、スポーツの機会づくりにつながりました。
- (2)スポーツイベントの開催支援を通じて、「する」「みる」「支える」といったスポーツと市民の様々な関わり方を創出できました。
- (3)東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド代表男子チームの事前合宿に関する覚書を締結することができました。
- (4)ワールドマスターズゲームズ2021関西ホッケー競技の競技運営計画等を作成し、参加者からのエントリー受付を開始しました。

評価

B

事業の課題と今後の取組

若い世代や女性の運動・スポーツの取組が進んでいない状況があり、これらの若い世代や女性の運動・スポーツ活動を促進するとともに、子どもから高齢者までの各世代、障がいのある人などが、体力づくりや健康づくり、生きがいづくりなど、様々な目的でスポーツに取り組むことができるよう、誰もがスポーツに親しむ機会を提供していきます。

事業番号		28																															
款	10 教育費	項	5 社会教育費																														
目	4 図書館費																																
事業名	継続	図書館管理運営事業	主管課 教育委員会 生涯学習課																														
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																															
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち																															
	単位施策	図書館機能の整備・充実																															
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)																														
予算額	52,630,000	51,982,000	国 費																														
うち繰越	0	0	県 費																														
決算額	50,775,145	50,527,075	市 債																														
うち繰越	0	0	そ の 他																														
執行率(%)	96.5	97.2	一般財源																														
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)																															
		私用消耗品・印刷・地図等収入 29,530円 公衆・私用電話使用料 882円 本のリサイクル事業協力金 24,560円																															
事業の目的および内容																																	
(1) 図書館サービス基本理念に基づき、誰もが身近に利用できる文化および情報拠点としての図書館運営に努めるとともに、運営形態見直し後のサービス低下を招かないよう図書館サービスの充実に努めます。 (2) 子どもの読書活動推進のため、子ども読書活動推進計画（第3次）の策定に向け検討・協議するとともに、市民力のある図書館として、ボランティアと連携するなど市民との協働に努めます。																																	
事業の実績																																	
(1) 山東・近江図書館管理運営事業 効率的な図書館運営を行うため、4月から休館日や開館時間を変更し運営しました。 山東図書館：月曜日、第2・3火曜日休館 近江図書館：火曜日、第1・3月曜日休館 開館時間：午前10時から午後6時まで（金曜日のみ午後8時まで） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>山東図書館</th> <th>近江図書館</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書購入費</td> <td>4,592,425円</td> <td>4,948,990円</td> </tr> <tr> <td>臨時職員賃金</td> <td>13,454,160円</td> <td>10,145,401円</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>196,315冊 (対前年度増減率 ▲10.9%)</td> <td>180,527冊 (対前年度増減率 +2.4%)</td> </tr> <tr> <td>蔵書冊数（令和2年3月末現在）</td> <td>146,943冊</td> <td>142,391冊</td> </tr> <tr> <td>除籍冊数</td> <td>1,570冊</td> <td>1,141冊</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>4,037人 (対前年度増減率 ▲7.8%)</td> <td>3,434人 (対前年度増減率 +1.9%)</td> </tr> <tr> <td>予約・リクエスト件数</td> <td>8,359件</td> <td>11,580件</td> </tr> <tr> <td>レファレンス件数</td> <td>2,634件</td> <td>2,135件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="2">蔵書点検実施（1月、2月）、ブックスタート（毎月）、各種イベント、リサイクル開催など</td> </tr> </tbody> </table> (2) 子ども読書活動推進計画（第3次）の策定に向け、家庭等における読書状況を把握するために実施した読書アンケートの結果から、現状の課題等の整理を行い、図書館協議会（4回開催）で検討・協議しました。 (3) 毎月10か月健診でブックスタートパックの配布を行い、絵本との出会いを提供しました。 配布人数：269人 配布率：99.3% (4) 市民が求める資料を提供するため、貸出しとレファレンスに力を入れました。					山東図書館	近江図書館	図書購入費	4,592,425円	4,948,990円	臨時職員賃金	13,454,160円	10,145,401円	貸出冊数	196,315冊 (対前年度増減率 ▲10.9%)	180,527冊 (対前年度増減率 +2.4%)	蔵書冊数（令和2年3月末現在）	146,943冊	142,391冊	除籍冊数	1,570冊	1,141冊	利用者数	4,037人 (対前年度増減率 ▲7.8%)	3,434人 (対前年度増減率 +1.9%)	予約・リクエスト件数	8,359件	11,580件	レファレンス件数	2,634件	2,135件	その他	蔵書点検実施（1月、2月）、ブックスタート（毎月）、各種イベント、リサイクル開催など	
	山東図書館	近江図書館																															
図書購入費	4,592,425円	4,948,990円																															
臨時職員賃金	13,454,160円	10,145,401円																															
貸出冊数	196,315冊 (対前年度増減率 ▲10.9%)	180,527冊 (対前年度増減率 +2.4%)																															
蔵書冊数（令和2年3月末現在）	146,943冊	142,391冊																															
除籍冊数	1,570冊	1,141冊																															
利用者数	4,037人 (対前年度増減率 ▲7.8%)	3,434人 (対前年度増減率 +1.9%)																															
予約・リクエスト件数	8,359件	11,580件																															
レファレンス件数	2,634件	2,135件																															
その他	蔵書点検実施（1月、2月）、ブックスタート（毎月）、各種イベント、リサイクル開催など																																
事業の成果			評価																														
(1) 図書館の基本的な休館日をずらしたことにより、利用者の利便性の向上が図れました。 (2) 図書館で継続して雑誌スポンサー制度に取り組んだことにより受入雑誌種数が増加し、幅広い分野の雑誌を利用者に提供することができました。 雑誌種数：83種（H30：78種 対前年度増減率：+6.4%）			C																														
事業の課題と今後の取組																																	
子どもの読書について、家庭、学校・園、図書館等が連携し、家族みんなで読書の推進を図る必要があります。成果と課題を整理し、今後策定する第2次図書館サービス基本計画への反映に努めていきます。																																	

事業番号		29																
款	10 教育費	項	5 社会教育費															
目	5 文化財保護費																	
事業名	継続	はにわ館管理運営事業	主管課 教育委員会 生涯学習課															
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち																
	単位施策	学びの場づくりの推進																
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)															
予算額	356,000	437,000	国 費															
うち繰越	0	0	県 費															
決算額	275,195	431,036	市 債															
うち繰越	0	0	そ の 他															
執行率(%)	77.3	98.6	一般財源															
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)																
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月に予定していた展示とそれに伴うイベントを延期したため。		はにわ館施設使用料 58,400円																
事業の目的および内容																		
(1)芸術展覧会等の芸術文化事業を実施します。 (2)地域文化や文化財を取り扱った展覧会等の事業を実施します。 (3)かたりベホールや第1、第2展示室の効率的な活用と利用促進に努めます。 (4)図書館との相乗効果が図れるような展示や事業の展開を行います。																		
事業の実績																		
(1)はにわ館企画展示 ①湖国を愛した画家 下倉祺世展2019 令和元年6月22日～令和元年6月30日 約30人 ②写真展「いのちに寄り添う花と風景」 令和元年7月6日～令和元年8月12日 約50人 ③パッチワークで楽しむ絵本の世界展 令和元年7月20日～令和元年8月18日 約20人 ④旧常喜医院伝来の名品展 令和元年8月25日～令和元年9月23日 約2,000人 ⑤書を飾る 令和2年1月5日～令和2年1月24日 約260人 ⑥息長古墳群の埴輪と鏡 令和2年2月8日～令和2年3月29日 約200人 長門寺遺跡発掘調査速報展 ⑦下倉祺世展 令和2年2月15日～令和2年2月28日 約30人																		
(2)主な支出 ①運営費 60,554円 ②管理費 211,849円																		
(3)貸館事業 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>利用回数</th> <th>収入金額</th> </tr> <tr> <td>第1展示室</td> <td>1回</td> <td>40,000円</td> </tr> <tr> <td>第2展示室</td> <td>0回</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>かたりベホール</td> <td>8回</td> <td>18,400円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9回</td> <td>58,400円</td> </tr> </table>					利用回数	収入金額	第1展示室	1回	40,000円	第2展示室	0回	0円	かたりベホール	8回	18,400円	合計	9回	58,400円
	利用回数	収入金額																
第1展示室	1回	40,000円																
第2展示室	0回	0円																
かたりベホール	8回	18,400円																
合計	9回	58,400円																
			【写真展「いのちに寄り添う花と風景」】															
事業の成果																		
(1) エントランスに設置した実物埴輪の説明パンフレットの作成や市公式ウェブサイト等でのはにわ館の施設情報更新を行ったことで、はにわ館の魅力をより深めて発信することができました。 (2) はにわ館企画展示や歴史文化財保護課等と連携した展示を実施することにより、来館者の地域文化への興味や関心を高めることができました。また、企画展示を通じてはにわ館の魅力を知ってもらい、貸館事業につなげることができました。			評価 C															
事業の課題と今後の取組																		
はにわ館企画展示等の主催事業を積極的に行うことで、展示施設としてのはにわ館を広く周知し、貸館利用の更なる促進を図り、広く有効活用していただけるよう努めていく必要があります。																		

事業番号		30	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	5 文化財保護費		
事業名	継続	文化財保護事業	主管課 教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	30,289,000	16,686,000	国 費
うち繰越	3,000,000	0	県 費
決算額	28,044,750	12,549,051	市 債
うち繰越	3,000,000	0	そ の 他
執行率(%)	92.6	75.2	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		社会教育事業関係受講料 116,500円	
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 7,977,000円	
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付金 298,000円	
		繰越事業費等充当財源繰越金 3,000,000円	
事業の目的および内容			
各種文化財調査、指定文化財の維持管理や修理などを実施することで、米原市に伝わる数多くの文化財の保護および活用を図ります。既存			
事業の実績			
(1) 萬留帳翻刻調査事業 2,975,708円 江戸時代から約300年間にわたり柏原宿などの様々な出来事を記録した貴重な資料である萬留帳（よろずとめちょう）について、保存と活用を図るため翻刻調査を実施しました（原本69冊全巻をデータベース化済）。また、調査報告書を教材に、柏原宿よろづ塾を開催しました。 柏原宿よろづ塾 全7回 参加者数：延べ166人 萬留帳翻刻調査報告書 第3巻刊行：400部			
(2) 文化財保護保存活動補助金 17,857,000円 まちの歴史や文化を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の維持管理、伝承活動、修理等に係る事業費に対し、関係団体に補助金を交付しました（米原曳山祭保存会ほか27団体）。			
(単位：円)			
団体名	事業名	金額	
米原曳山祭松翁山保存会	松翁山保存会の曳山執行	1,000,000	
米原曳山祭壽山保存会	壽山保存会の曳山執行	1,000,000	
米原曳山祭旭山保存会	旭山保存会の曳山執行	1,000,000	
米原曳山祭保存会	曳山祭保存会の伝承活動	900,000	
青岸寺	米原曳山祭旭山の山車修理	928,000	
鴨と蛸の里づくりグループ	国名勝青岸寺庭園の保護活用	200,000	
上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部	ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業	200,000	
弥高さつま会	上平寺城跡参道整備事業	150,000	
湿原を考える会	弥高寺跡維持管理事業	150,000	
筑摩自治会	山室湿原整備、活用事業	95,000	
徳源院	鍋冠祭保存会の伝承活動	80,000	
大久保の史跡を守る会	徳源院三重塔および庭園の保護活用	67,000	
観音寺	国史跡京極家墓所の保存修理	934,000	
流星保存会	市史跡長尾寺跡の保護活用	60,000	
流星打上実行委員会	重要文化財観音寺の保護活用	60,000	
大野木自治会	流星打上げの維持管理活動	45,000	
番場の歴史を知り明日を考える会	県選択無形民俗文化財流星の打上げの実施	596,000	
朝日自治会	大野木豊年太鼓踊保存会の伝承活動	30,000	
長沢福田寺	国史跡鎌刃城跡の保護活用	30,000	
	朝日豊年太鼓踊りの保存伝承活動	60,000	
	国名勝福田寺庭園の保護活用	42,000	
	県指定福田寺御殿の修理	5,786,000	

事業の実績

(単位：円)

団体名	事業名	金額
井之口自治会	井之口太鼓踊保存会の伝承活動	50,000
柏原学区史跡保存会	国史跡北畠具行卿墓の保護活用	15,000
志賀谷自治会	華の頭のおコナイの伝承活動	15,000
松浦家	市指定松浦家住宅屋根修理	1,018,000
磯まぬけ踊り保存会	磯まぬけ踊りの伝承活動	15,000
長沢自治会	福田寺公家奴振保存会の伝承活動	15,000
中多良区	中多良太鼓山の修理	66,000
松井家	県指定松井家住宅の修理	3,000,000
春照太鼓踊保存会	春照太鼓踊りの保存伝承活動	250,000

(3) 埋蔵文化財活用事業 1,846,558円

①遺跡を活用したイベント

鎌刃城まつり

開催日：令和元年6月2日

内容：鎌刃城見学、講演会 参加者：約170人

②市内の遺跡や施設の紹介と、現地の散策が連動した啓発資料の作成、設置

遺跡案内看板 4か所（山津照神社古墳、ミミ塚古墳、磯山城遺跡、鎌刃城跡）

トレッキングマップ「長比城、須川山砦、八講師城」 3,000部

パンフレット「米原の弥生一稲作が始まったころ」 300部



【トレッキングマップ】

(4) 文化財発掘調査事業 4,290,739円

市内史跡等の調査

国史跡指定を目指して長比城跡のレーザー測量調査を実施しました。

市道顔戸八田羽織線新設改良工事に先立って、埋蔵文化財調査を行うための試掘調査と一部発掘調査（長門寺遺跡）を実施しました。

企画展「長門寺遺跡発掘調査速報展」

（企画展「息長古墳群の埴輪と鏡」を同時開催）

開催日：令和2年2月8日～令和2年3月29日

見学者数：約200人



【長門寺遺跡発掘現場】

事業の成果

- 萬留帳翻刻調査事業は、保存と活用に向けてのデータ保存や内容把握などの基礎資料の蓄積と、報告書を教材とした「柏原宿よろづ塾」を通して、萬留帳の存在と内容を周知する契機となりました。
- 文化財保護保存活動補助金は、米原市の歴史をひも解く上で貴重な指定文化財を次の世代に引き継ぐための維持管理、伝承、修理活動に対する一助となりました。
- 埋蔵文化財活用事業は、市内に残る貴重な遺跡などを多くの市民にPRすることができたほか、地域住民と連携したイベントの開催や学校の周辺の遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果がありました。
- 長比城跡のレーザー測量調査により、令和2年度に作成する赤色立体図の基礎データが収集できました。また、市道顔戸八田羽織線新設改良工事に伴う発掘調査では、弥生時代から古墳時代にかけての遺構（方形周溝墓、柱穴など）と土師器の甕（かめ）や壺、須恵器の高杯などの土器が発見されました。調査結果は、今後発掘調査報告書にまとめ、市民が調査結果を共有できるように活用します。

評価

B

事業の課題と今後の取組

数多くの文化財を次代に引き継ぐため修理を進めていますが、破損等が進行しているものもあり、令和2年度から策定を進めている文化財保存活用地域計画の現地調査などで現状を把握した上で計画に反映し、所有者（管理者）と協議・調整しながら、早期の保存修理に努めます。

事業番号		31	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	5 文化財保護費		
事業名	継続	文化財施設管理運営事業	主管課 教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	23,544,000	23,017,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	22,924,020	22,203,524	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	97.4	96.5	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
		柏原宿歴史館入館料・使用料 490,290円 柏原宿歴史館施設管理経費負担金 150,935円 公衆・私用電話使用料等 4,550円 私用消耗品・印刷・地図等収入 150円 社会教育事業関係受講料 170,000円	
事業の目的および内容			
市民が気軽に歴史に親しむことができる場を提供するため、各館の特徴を生かしながら管理運営を行います。			
事業の実績			
(1) 指定管理者に管理運営を委託しました。			
① 醒井宿資料館 4,474,411円 (うち指定管理委託料 3,237,000円) 指定管理者：醒井自治会 年間施設入館者数 919人 (平成30年度 727人) 企画展 1回			
② 伊吹山文化資料館(一部指定管理) 9,523,745円 (うち指定管理委託料 8,882,000円) 指定管理者：(公財) 伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 年間施設入館者数 5,946人 (平成30年度 6,993人) 企画展 7回、歴史アカデミー 10回、古文書講座 10回、 体験教室 15回			
(2) 直営により管理運営を実施しました。			
柏原宿歴史館 5,302,344円 年間施設入館者数 2,248人 (平成30年度 1,793人) 企画展 2回「福助さん大集合!」ほか テーマ展 1回「絵図を読む④」 ウォーキング学習 1回「東山道を歩こう」			
(3) 柏原宿歴史館空調改修工事 2,666,520円			
(4) 国の天然記念物であるイヌワシの剥製の製作 957,000円			
事業の成果			
(1) 各館の特徴を生かした事業を中心に、歴史に親しんでもらう場を提供できました。 (2) 柏原宿歴史館では柏原宿関連の古文書や歴史資料などの解説や展示、伊吹山文化資料館では伊吹山地とその山麓の自然と文化、また醒井宿資料館では醒井宿関連の絵図を展示するなど、米原とのつながりをテーマにした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を発信することができました。 (3) 柏原宿歴史館の空調改修工事により、入館者の利用環境の改善を図ることができました。 (4) イヌワシの幼鳥の剥製は全国的にも貴重で、伊吹山をはじめとする本市の豊かな自然環境について学ぶきっかけとしての今後の活用が期待できるほか、多くのメディアに取り上げられたことにより、本市の魅力発信に大きく貢献しました。			評価 C
事業の課題と今後の取組			
米原市の魅力を発信し、利用者の安心安全な利用環境を確保するために、各館の環境整備に努めます。			

事業番号		32	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業	主管課 こども未来部 子育て支援課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化	
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	2,121,000	2,245,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	1,641,698	1,890,638	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	77.4	84.2	一般財源
			1,569,698
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
子ども会育成連合会活動補助金において、県から想定外の補助金収入があったことおよび創作体験活動に係る経費が安価となったため。			
事業の目的および内容			
子どもが心豊かに伸び伸びと育つまちづくりを進めるため、青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、子どもの成長の基幹となる家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います (1) 青少年育成市民会議では、定期的にあいさつ運動やパトロールを行い、子どもの見守り、安全確保、青少年の健全育成や非行防止に努めます。 (2) 子ども会育成連合会では、創作体験事業や支部事業など、各種団体と連携しながら地域での異年齢交流や体験の場を提供します。また、小学校5・6年生を対象にしたジュニアリーダー講習会を実施し、地域に愛着を持った次代を担うリーダーの育成に努めます。 (3) PTA連絡協議会では、家庭の教育力向上や学校、家庭、地域の連携の強化を図ります。			
事業の実績			
(1) 青少年育成市民会議		補助金 869,396円	
青少年健全育成、子どもの安全確保、非行防止・環境浄化、家庭教育・子育て支援等の活動支援			
①あいさつ運動の実施：年間9回 毎回約250人参加			
②青少年育成大会開催：令和元年10月5日 場所：市民交流プラザベルホール310 205人参加 顕彰表彰、あいさつ標語表彰、中学生広場（意見発表）、講演会（PTA教育講演会と合同）			
③巡回パトロールの実施：年間30回以上			
④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供			
(2) 子ども会育成連合会		補助金 585,734円	
①ふれあいの里フェスティバル（創作体験事業）の実施 令和元年10月5日 場所：市民交流プラザ 約370人参加			
②支部事業（3支部）および各単位子ども会（73団体）への助成			
③ジュニアリーダー養成講習会：年間12回、11人参加			
④子ども会活動実践記録「ほたる第15集」の発行			
⑤会員数：1,833人（平成30年度 2,321人）			
(3) PTA連絡協議会		補助金 186,568円 【教育講演会】	
市内のPTA会員の家庭の教育力向上および教育啓発事業等への活動助成			
①教育講演会開催：令和元年10月5日 場所：市民交流プラザベルホール310 205人参加 講師：宮本延春さん 演題：マル出しスイッチON 自尊心の育て方			
②会員数：3,370人（平成30年度 3,383人）			
事業の成果			評価
(1) 青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的に実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。 (2) 子ども会育成連合会では、創作体験活動を実施することで子どもの自主性と協調性を伸ばすとともに、地域の子ども達を地域で育てる力を高めました。 (3) PTA連絡協議会では、教育講演会を開催し、家庭の教育力向上に努めました。			C
事業の課題と今後の取組			
生活様式や社会状況の変化に伴い、青少年活動、子ども会活動、PTA活動の形骸化が進んでいます。本事業については、その在り方について、縮減や存続を含めた議論が必要であります。			

事業番号		33	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	少年センター事業	主管課 こども未来部 子育て支援課
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち
		単位施策	家庭・地域の教育力の強化
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円)
予算額	2,860,000	2,449,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	2,514,970	2,298,951	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	87.9	93.9	一般財源
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)	
事業の目的および内容			
(1) 青少年の非行防止および犯罪の未然防止のために少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動や有害環境浄化活動を実施します。 (2) 不登校、非行、無職少年やニート、ひきこもりの青少年および家族からの相談を受け、自立へ向けた支援を実施します。			
事業の実績			
(1)補導活動 ①街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声かけ活動を定期的に行いました。 主な街頭補導：青少年の非行被害防止滋賀県強調月間（7月）、滋賀県青少年健全育成強調月間（11月）、天の川ほたるまつり、醒井地蔵まつりなど（延べ187回実施） ②職員および少年補導委員による補導活動を実施しました。			
(2)相談活動 少年およびその家族等からの不登校、いじめ、問題行動に関わる相談を実施しました。 ※就労相談については若者自立ルームあおぞらと連携して実施しました。			
(3)環境浄化活動 有害図書等立入調査、白ポスト、有害図書回収活動を実施しました。（月2回定期回収）			
(4)啓発活動 ①少年の主張作文集を作成し、発行しました。（年1回、300部） ②薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止セミナーおよび薬物乱用防止教室を実施しました。（年5回）			
(5)研修および情報交換 ①無職少年対策指導員や少年補導委員の研修を実施しました。（年6回） ②小中学校や警察、保護司会等との情報交換を実施しました。（訪問校数延べ30校） 【主な経費】 少年補導職員賃金（1人） 1,320,765円 補導委員報償費（37人） 555,000円 需用費（啓発資材、自動車燃料等） 227,006円			
事業の成果			評価
市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで、青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。			C
事業の課題と今後の取組			
市内の非行少年や不良行為少年の検挙・補導人員は減少傾向にあるが、社会状況の変化から、いじめや不登校、引きこもりなど社会から孤立する若者が増えています。今後は、県立高校等と情報連携を密にし早期対応を行うとともに、自立支援ルーム「あおぞら」との連携が必要です。			

事業番号		34						
款	10 教育費	項	4 幼稚園費					
目	1 幼稚園管理費							
事業名	継続	幼稚園管理運営事業	主管課 こども未来部 保育幼稚園課					
総合計画上の位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり						
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち						
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実						
事業費(円)	元年度	30年度	財源内訳(円) 元年度 30年度					
予算額	26,806,000	17,907,000	国 費 48,450 28,000 県 費 74,925 33,000 市 債 0 0 そ の 他 1,568,718 3,060,703 一般財源 23,016,955 14,038,062					
うち繰越	0	0						
決算額	24,709,048	17,159,765						
うち繰越	0	0						
執行率(%)	92.2	95.8						
執行率80%以下の理由(元年度)		その他の内訳(元年度)						
		共済掛金負担金 9,558円 特定教育・保育施設使用料 705,510円 一時預かり利用料 59,400円 天狗の丘使用料 9,000円 通園バス利用負担金 274,000円 学級教材費利用者負担金 293,250円 教育実習受入金 218,000円						
事業の目的および内容								
(1) 保護者との連携のもと、幼児教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。 (2) 第2子以降で0歳児から5歳児（18歳未満の兄弟がいる場合）までについて、引き続き保育料の軽減を実施します。 (3) 保育の充実と保護者の利便性を高めるため、保育業務支援システムを導入します。 (4) 経年劣化が進む山東幼稚園の改修工事に係る設計を実施します。								
事業の実績								
(1) 市内特定教育・保育施設利用子ども数（令和2年3月31日現在）（単位：人）								
施設名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	うち市外の園児	利用定員	定員充足率(%)	子ども数前年度比
山東幼稚園	16	19	24	59	1	110	53.6	▲11
(2) 幼児教育・保育の無償化の開始								
関係法令が改正され、令和元年10月1日から幼児教育・保育の無償化が始まりました。 対象者 ○当該年度の4月1日時点で、3歳から5歳までの全ての子ども ○満3歳に到達した子どもで、幼稚園や認定こども園短時部を利用する子ども ○当該年度の4月1日時点で、0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子ども								
(3) 幼稚園保育料軽減額								
国基準額による保育料額	4,874,950円	市基準額からの保育料軽減額	553,550円					
市基準額による保育料額（軽減前）	1,259,060円	市基準額からの保育料軽減率	44.0%					
第2子以降保育料軽減後の徴収額	705,510円	軽減対象者延べ人数	201人					
※ 令和元年10月から幼児教育・保育の無償化が始まったため、軽減額および人数は令和元年9月までの実績です								
(4) 園内研究会および研修会								
保育者の資質向上を目指して、次のとおり園内研究会等を開催しました。								
施設名	研究会	研修会	令和元年度研究主題					
山東幼稚園	11回	9回	子どもと教師がともに遊びを創り出す保育をめざして 各年齢の発達を踏まえた遊びの環境や教師の援助を探る					
(5) 幼稚園型一時預かり事業 利用者延べ人数 241人（前年度実績338人）								
(6) 保育業務支援システムの導入 3,583,910円 保育業務の効率化を図るために保育業務支援システム（ICT）を導入しました。								
(7) 山東幼稚園改修工事設計 1,650,000円 平成15年建築の山東幼稚園について、近年、雨漏れが頻発し応急修繕で対応していますが、根本的な改修が必要であることから、今後の改修を見据えた設計業務を行いました。								
事業の成果			評価					
計画的な園内研究会および園内研修会を開催することで保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図りました。 引き続き市独自の第2子以降保育料軽減事業を実施し、子育て家庭の経済的負担の緩和を図りました。令和元年10月からは幼児教育・保育の無償化が始まり、保育料が無料となりました。長期休業期間中の一時預かり事業を実施したことで、保育ニーズに対応することができました。			C					
事業の課題と今後の取組								
・山東幼稚園の就園児数は、少子化の影響等により年々減少傾向にあり、望ましい集団規模を確保しにくい状況にある。また、施設の老朽化による雨漏れの発生など、大規模な修繕が必要な状況となっており、今後の在り方について現況と課題を踏まえた総合的な判断を行う必要がある。								

(3) 学校等の評価

「令和元年度米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を各保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校ともに共通項目とします。校園における自己評価の結果や校園長の説明、保育や授業、行事の参観等を基に、評価と御意見をとりまとめました。

なお、評価の方法は、それぞれの項目について評価していただきました。

認定こども園運営委員・幼稚園評議員による園評価

【公立認定こども園および幼稚園 集計結果】

4 : よくできている 3 : できている 2 : あまりできていない 1 : できていない

1 園経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・評価

平均 3.7

視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。

- ・特に幼児教育は将来の基礎となる教育と考えるので、よろしく願いたい。

視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。

- ・園だより等を自治会に回覧を行うことで、地域に開かれた園作りに努められている。子どもたちの活動する姿や行事など、地域の人達にもこども園の様子がよくわかり、良い事だと思う。
- ・自己評価により教職員の共通理解を深めることはできたが、まだ、子どもの育ちに効果があったかどうかを十分に確認するまでには至っていないのではないかと。保育は子どもに寄り添い、子どものことばを代弁すること、幼児教育は、子どものより良い育ちをいかに援助するかが大切であると聞いたことがある。全職員共通で評価項目や指標を理解し、子ども一人一人の思いを大切にする姿勢を持ち続けていかれたい。
- ・園の方針を聞いていると、子どもたちがいきいきと仲間と共に『遊び』育つを理念としながら、「安心・安全」等を園経営の視点として、園児たちが「今日も楽しかったよ」と言ってくれることを願って多彩な取り組みがなされ成果をあげている。
- ・評議員会での説明や資料、毎月の園便りから、園長初め職員の皆さんが、子どもたちに向けているきめ細やかな配慮が、良く伝わってくる。
- ・運営委員会では、目指す子ども像の掲示や、生活の様子が写真で掲示されていてとてもよかった。園児数、職員数が多いので、意識の統一や保護者への理解度を深める取組を無理のない程度によろしく願いたい。
- ・地域共生を目指す中で、こども園の認知度はまだよくないと思う。目指していることが園外の人に届いていない。園外への発信を考えればもっと認知されるのではないかと。

- ・今一度開園当時を思い起こし、「保育をつなぐ」ことを目標にチーム保育を徹底してほしい。

視点③ 園長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

- ・社会の現状に適応するよう常に研鑽を積み、園長先生を柱に連携を図りながら、園経営を進められている。
- ・アンケート集計結果の評価内容にある、保育の充実を図るために職員が一丸となった積極的な姿勢を感じる。という項目が他の項目に比べて保護者評価が低いのはお忙しい先生方への保護者の要望がとても高いものだと感じられた。子どものことを先生と対話して安心したいのかなと思った。
- ・園を訪問すると、先生方が笑顔ある元気な声で迎えていただく。そして、園長・副園長のもと「チーム保育」（教職員が協力しながらさらなる保育向上を図る）に取り組んでおられ、教職員も「楽しい職場」「働きやすい」等の言葉が発せられ、教職員の熱意を引き出すなど、素晴らしい園経営がされている。
- ・いつもこども園職員が一丸となって、子どもの育成に取り組んでくださることに感謝している。特にグループで保育にあたり、お互いに助け合っておられる職員間のチームワークづくりが功を奏しているように思う。
- ・園長の指揮のもと、職員が同じ方向性をもち、統一感のある園運営がされている。
- ・園長を中心に、職員が力を合わせ、よく取り組まれている。発達に遅れをもつ子、転入园児、子育てに対する不安をもつ保護者のお子さんなど、その子に応じた指導援助がなされ、職員の連携の良さがわかった。
- ・職員は子どもたちに寄り添いながら指導されていて、きめ細やかな保育がされていると、いつも感じている。にもかかわらず、来年度の入園者が6人という状況には驚くばかりである。少人数であるからこそその手厚い保育の良さを、もっと皆さんに伝えられたらなあと思う。
- ・看護師の常駐によって、園内で安心した活動が行えること、子どもたちがより安全に過ごすことができるようになったことを評価する。
- ・月案や週案の下で、教育目標に向かって努力されていることを感じる。

視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、管理職およびコーディネーターを中心に、園ぐるみできめ細かな支援の充実を図っている。

- ・保護者側として目に見える取組なので、評価が難しい。

視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。

- ・アンケート等を見ていると園からの情報発信、保護者との情報共有が十分でないようなので、引き続き積極的な取組をお願いします。
- ・あらゆる方面に目を向けられていると思う。こども園2年目という大切な時期に努力されているのも感じる。
- ・園からの情報発信や協力発信が良くできていて、積極的に地域と連携を図り、開かれた教育、保護者や地域とも協力して、共に、子どもたちを育てていこうとする取り組みを評価する。

視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。

意見等なし

視点⑦ 未就園児家庭を含めた全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。

- ・未就園児家庭について園の方で把握できているとお聞きし、安心した。地域でも見守った方が良い場合があれば、民生委員さんとも共有できればと思うので、ご連絡いただけるとありがたい。
- ・未就園家庭の支援でこのような活動をされていると知り、とてもすばらしいなあと思った。
- ・「あゆっこ」の部屋が狭く、また、庭が北向きで日があたらなく、かわいそう。
- ・きめ細やかな対応をしている。センターに来ない家庭にはさらなる細やかさを。

2 基本的な生活習慣の形成・・・・・・・・・・・・・評価

平均 3.6

視点① あいさつをはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・基本的な生活習慣の定着を意識しながらのかかわりや表示を心掛けている。
- ・子どもたちは、同年代の友だちと一緒に楽しく、挨拶や食事の習慣を身に付けていっていると思う。
- ・朝、園長先生が入り口に立って率先してあいさつ運動をしている。登降園時には先生方が必ず先にあいさつをしてくれている。このような姿を見て園児たちもあいさつの習慣を身に付けていると感じる。家での子どもの様子を見ていて、学年だけでなく時期を見て、集団生活のあり方を変えてくださっているのがわかる。
- ・園を訪問すると、先生方の笑顔のある元気な挨拶があり、すがすがしい気持ちになる。園児や保護者にも大きな影響を与えていると思う。(私自身も見つめ直します。)
- ・基本的な生活習慣が、まだ不十分な園児に対しては「他者への関心」をもたせながら、できている園児の「まねさせる」ことによって自然と身につけさせる(集団の力をうまく利用されている。)等、いろいろと指導方法の工夫がされている。
- ・至る所で工夫され、生活リズムを感じ取れる環境や職員の言葉かけが良い。
- ・看護師が常勤されることになり、生活習慣や衛生面・健康面に関わる指導が充実されていた。遊びを通して怪我の多い子どもたちであるうえに、様々な疾病がある昨今、保護者の側から見ても専門の方による適切で手厚い援助はありがたい。
- ・孫が手洗いの歌を歌いながら石鹸での手洗いをしている。しっかり指導している。
- ・園で歯磨き指導ができていることを評価する。箸の持ち方やトイレの使い方指導などがあってもいいのではないかな。
- ・第1子を通園させている保護者にとっては、家庭で躱ける基本的な生活習慣も、「何を」「どのようにして」子どもに教えたらいいいのか迷っておられるのではないかな。園で行っている指導を、保護者にもわかるような機会(お便り等)を大切にしたい。
- ・保護者の価値観がまちまちである。子どもたちには園で身に付けさせるだけでなく、保護者への指導もお願いしたい。
- ・保護者からの意見に、「送迎時誰もいない」とあったのは残念。職員の人数の事情もあると思うが、あいさつの大切さを大事にしてほしい。

- ・毎日継続することで身に着ける力があると考え。多様な価値観の中で育つ子どもたちが自然に身に付けられる力がその人の品になり人格になる。地道にコツコツと指導してほしい。それが、将来のその人の力になる。

視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解の下に取り組めている。

- ・園が担うことが多くなっている。多様な中で、日頃の先生方の対応の大変さを思うとともに、園訪問の時の子どもたちの優しさにふれ、先生方のご指導のすばらしさを感じる。
- ・保護者は、園に頼り切っているように感じる。

視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

意見等なし

3 豊かな感性や表現力の育成・・・・・・・・・・評価

平均 3.7

視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・地域の特性を生かした活動ができていると思う。広い園庭、自然豊かで四季を感じとれる環境にとっても満足している。
- ・絵本も盛んに活用され、絵本の想いを考えながら、「夢の世界」や「楽しそうだね」「うれしいね」「かわいそうね」等の会話を楽しく交わしながら「思いやり」「優しさ」等培っておられるように思った。
- ・園児たちの五感を培うために、実体験を日々の園生活や多彩な行事等の中で取り組まれている。（例えば、「干し柿づくり」では、ヌルヌル感、皮をむく時の力の入れ方等）そして、行事等に参加すると必ず手作り作品（心もこもった作品）を「ありがとう」の笑顔を浮かべながら、手を差し出してくれる。私も「心地よい笑顔とありがとう」の言葉が自然と出てきて、何ともいえない園児の手の温もりを感じながら、互いに、うれしさを共感させていただいた。
- ・地域の人たちとの交流など、工夫しながら様々な取組をしている。

視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心掛けている。

- ・一人一人の子どもたちをみんな大切に考え保育されている。
- ・いろいろな友だちや先生と関わりながら、子どもたちの心も日々成長していると思う。先生によって対応が違っても、それが経験となり、いいと思う。
- ・子どもの意見をよく聞き取っておられ、何でも言える雰囲気が漂っている。
- ・特に年長は、自分で考え自分で動くが、先生との距離感に戸惑う子もいる。敏感に察知し、保護者や他の職員との情報共有、対応をお願いしたい。

視点③ 一人一人の子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。

- ・畑の作物や花の生育を身近で体験させ、また、なかなか普段では経験できない干し柿づくりやさんま焼き、もちつきなどを体験する行事をくんでくださることはありがたい。

- ・子どもの発達段階に応じて、興味関心を大切に活動や手作りおもちゃがあり、豊かな感性の育成に取り組まれていることを感じた。
- ・広い園舎・園庭を十分活用できている。少人数のクラスによって、子どもたちが充実した生活が送れていると感じる。一クラスで2部屋を利用するなど、教育を受ける環境が整えられており、教育の内容にも工夫がされていた。
- ・どのクラスも子どもたちが生き生きと自己表現できていて、保育の積み重ねの成果を感じた。
- ・一人ずつの感性はバラバラ。自分の気持ちを表に出すのが苦手な子にも目を配り対応してもらえるとありがたい。また、一人ずつ心を動かされる場面や環境、言葉などは違うので、大変だと思うが、物的、人的環境をこれからも考えてほしい。
- ・環境を通しての教育を実践していることを、保護者へ啓発し、さらに充実してほしい。

4 健やかな体と豊かな心の育成・・・・・・・・・・評価

平均 3.8

視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・安全面のことを考えると屋外での活動にも制限がかかりますね。その分、屋内での活動に工夫が見られると思った。
- ・保育室の環境や保育内容を子どもたちの興味や関心に沿って、柔軟に対応しており、自主的に活動できるような教育・保育を実践している。
- ・子どもの発達段階やクラスの実態を把握し、教育・保育の目標をしっかりと考えながら取り組んでいる。
- ・園児たちの健全育成を図るために、食育指導や全身を使った遊びの工夫（わんぱく教室・園外への散歩等）に意欲的に取り組んでいる。
- ・体感できるものが周りにたくさんあり、それが、有効に活用されている。
- ・環境を生かして、親子で自慢できるような体作りや取り組みを一層工夫されるとよい。
- ・子どもたちに学年の意識は持たせてほしい。成長する中で最年長という意識が責任感に変わり、自分という意識が誕生し、自覚が生まれる。常に子供に寄り添いながら保育をお願いしたい。

視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・立地をうまく活用している。伊吹山登山は、保育参加として親子で登山するのも良いかと思われる。
- ・私たちもおはなしボランティアとして、絵本を選んで追体験をするように心がけている。
- ・お母さんの読み聞かせも、子どもにとって良い影響があると思う。
- ・身近な自然に触れ、その中で生活することは、健やかな体や豊かな心の育成につながると思う。自然は1番の先生。まずは保育者が自然の不思議に気づき、細かな変化を言葉に出して子どもたちに伝えてほしい。感性豊かな保育者になってください。
- ・周囲の豊かな自然環境をいかして、伸び伸びと教育や保育が行われていることは、子どもたちの健全な発達につながっており、生きる力を育む教育・保育を実践している。

視点③ 自然環境に関わり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さや命の大切さに気付く取組をしている。

- ・色々と工夫して、豊かな心の育成に努力されている。
- ・自然を感じながら外でたくさん遊ぶ経験をさせてもらえることは、子どもも楽しいだけでなく、親にとっても嬉しい。
- ・園を訪問すると四季が感じられ、また、自然とのふれあいを深めるために菜園場が整備され、毎日、世話を続けさせることによって、作物に対して「大きく育ってよ」「きれいに咲いてよ」等の声をかけながら、愛で心（情が移る）を育てている。
- ・動植物の飼育栽培に力を入れており、子どもが命の勉強を十分にできている。
- ・小動物の飼育や花の栽培等は、成長する過程を楽しむ機会であるとともに、ウサギや烏骨鶏の死は悲しみを体験する場であったと思う。動植物を育てる活動は、今後も続けてほしい。
- ・自然に囲まれた園の特性を生かしてほしい

視点④ 身近な大人や友達と一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。

- ・調理体験も貴重な体験であり、子どもの豊かな心と体作りに良い機会であると思う。
- ・クッキングや野菜の栽培を楽しく行えており、子どもの「やってみたい」を伸ばす良い影響になっている。
- ・多良へさつまいも作りに行ったり、多良公民館でのお年寄りとの交流を図ったり、きめ細やかな経験ができるように配慮されていて感心している。
- ・地域の人たちと食体験できたことはよかった。

5 人と関わる力の育成・・・・・・・・・・・・・評価

平均 3.6

視点① 一人一人の子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係作りに努めている。

- ・先生方は、十分なコミュニケーションが園児とも保護者ともとれるよう、日々努力されていることはよく理解できる。しかし、保護者の思いは「もっともっと先生方と話したい」のようである。ギャップをうめることは難しいかもしれませんが、常にそれを意識して保護者に接することが大切だと思う。
- ・自分の思いを伝えたり、他人の話をよく聞いたりすることはとても大事なので、先生方がそこに寄り添ってくれて、共感してくれたら子どもたちも立派な小学生になると思う。
- ・子どもが先生方を信頼しきっている。自己表出もだんだんとできるようになってきている。
- ・5歳児学級の合奏遊びで、楽器の担当を自分たちで話し合い、交代し、解決していく姿を見た。勇気をもって自分の思いを伝えたり、仲間の思いを考え、代弁したりする姿には、人との関わりで大切なことを学ぶ原点のようなものを感じた。また、それを職員が温かく見守り、必要に応じて言葉をかける指導は、素晴らしいと思った。
- ・休みにあったことを月曜に先生に話したと、子どもがよく言う。それは、先生と子どもの間に信頼関係がないとできないことだと思う。
- ・子どもたちとの距離感をうまくとるのは非常に難しいと思うが、主体性を重んじながらも個々に応じたフォローをお願いしたい。

- ・職員と子どもとの関係作りに重きを置いて、良き学級作りを目指してほしい。

視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。

- ・子どもの主体性を重んじた保育を園全体目標とされている。
- ・子どもたちが健全かつ、意欲を持ちながら成長できている、心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育を実践していると感じるが、一人一人が挑戦できるような活動や集団で楽しめる活動が用意されているのかどうか、自己評価でも戸惑いがあったとの記述が見られた。
- ・日々の生活や遊びを通して、子どもたちの主体性・自主性を大切に保育されている様子がよくわかる。保護者もちょっとした子どもの様子も話してもらえると安心し、うれしいと思う。
- ・広い活動スペースを大いに活用し、目的に合った活動・保育が十分に行えている。子どもたちがやりたいことを、生き生きと活動できている。
- ・豊かな自然に直接触れ合う体験活動や五感を働かせる活動を大切にしている。積極的に活動場所を設定し、いかに遊ぶかを考え実行する。このような営みを大切にしてほしい。

視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友達の良さや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・入園式と卒園式に参加させていただき、1年間の子どもの成長の大きさに感動する。子と子のかかわりの成長、思いやりの姿など輪の広がりはすばらしい。
- ・行事に参加するごとに、必ず、お礼の言葉と「心のこもったおみやげ」を頂く。人との交わり方（おすそわけの精神）を体験させておられることに感心している。
- ・園生活の中で、園児がトラブルした時、「ごめんなさい」「なんともないよ」等の言葉や素直な態度がとれるように指導しながら、さらなるよりよい関係づくりのためによく努力されていると思った。
- ・年長にいくに従い、グループでの行動で相談し計画をたて主体的に遊びや体験をしようとしている姿を見て、感心している。特に、お互いに思いやりを持って接し、けんかすることもあるのではないかなと思うが、お互いの気持ちになって、言葉がけしている様子がみられ、微笑ましく思った。5歳児の成長している姿にびっくりする。
- ・様々な障害や困り感のある子らも共に学び、譲り合って、助け合って活動されていて、いい姿が見られた。
- ・数少ない参観の機会では、子ども同士のいざこざの場は見えていない。むしろ、仲よく遊び遊んでいる場に多く接し、こうして成長していくのだなあと思った。
- ・人とかかわる力は子どもが一人の人間として生活するうえで、何より大切な力。子どもと真摯に向き合い、思いを聞いてもらうためには、長い時間と労力が必要。クラスで、学年で、園で、協力しながらその時間を作してほしい。（職員の協力）
- ・研修参加への職員の前向きな意見が多くうれしい。正職や担任だけでなく、すべての職員が環境構成や子どもへのかかわり方について、研修を深めてほしい。

小・中学校学校運営協議会委員・学校評議員 による学校評価 【小学校・中学校集計結果】

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

1 学校経営全体に関わること・・・・・・・・・・評価

小学校	平均 3.5
中学校	平均 3.6

視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

〔小学校〕

- ・学校教育目標、目指す子どもの姿、具体的な実践等、協議会で詳しく説明していただいたり、学校だよりを通じて取組状況を知らせていただいたりしています。校長先生の子どもへの教育方針が明確に理解でき、学校の目指す方向性が分かりやすく、取組の成果が伺えます。また、目指す子ども像を目標にした「合い言葉」は、子どもたちだけでなく、地域、教職員ともに分かりやすく理解でき、よいと思います。
- ・安定した地域環境の下で、安心して学び続けられる子どもたちは大変幸せです。今後とも、発達に即したたくましい成長や諸能力の育成が着実に進められることを期待しています。
- ・学校経営方針や子どもの姿が、学校運営協議会でしっかりと知らされ、熟議の内容となった。学校としての取組はよくやっているといると思うが、PTA役員や学運協委員ばかりでなく、区長や役員など一般市民にも、子どもたちの様子や学校事業に関心を持っていただきたいものである。

〔中学校〕

- ・目指す学校像、生徒像に向けて、いろいろな試みをされている成果が出てきていると感じます。ボランティア活動日本一を目指そうなど、地域の力を借りて、生徒がかけがえのない力を付けてくれるのがうれしいですね。学校と地域社会、職員と生徒、また職員同士が互いに敬意をもって接しているように感じられ、健全な経営ができているように感じます。
- ・地域の子どもの実態で、何が最も課題なのか、焦点を絞る事が必要だと感じました。あれもこれもと外部から求められることもあるので、それらに全て答えようとするあまり、生徒も教員も課題を意識化することが困難になり、何をしてきたのかが、結果として分かりにくくなっているように感じています。
- ・今、地域住民の一体感が少なくなっていると感じています。しかし、中学校の教育活動に関心が高く、中学校のことならと動かれる方が多いように思います。中学校の教育活動に対して全面的に信頼しています。地域住民の目に見える生徒の姿に期待し、地域と共に歩んでいる学校の姿を期待しています。

視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校だより等により保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・学校だよりでは各学年の姿や様子に合わせて、普段の学校生活の中で気づいた子どもの姿や教職員の様子が書かれていることもあり、保護者や地域の方にも学校の雰囲気伝えられる大切な機会になっていると感じる。学校だよりは、子どもの様子や取組がよく見え、地域で学校の話が共有できる価値ある資料となっている。
- ・学校と家庭をつなぐ校長執筆の学校だよりが毎月発行され、校長の所感をはじめ、学校の行事や学習活動についてタイムリーな情報が提供されている。また、特に学校独自の取組には多くの保護者や祖父母、地域住民が参観し、子どもたちがチームで取り組むアクティブ・ラーニングの学びに大きな感動と期待をもっている。
- ・学校運営協議会に参加させていただいていることで、学校の様子、教育目標等をよく知ることができますが、保護者や地域の方には学校の方針やどんな強み（特色）があるのか、また、先生方の頑張りがうまく伝わっていないように思います。先生方の、学校をよくしたいという熱意を感じるだけに、もっとたくさんの方に学校に関心を持ち、関わっていただけるよう、情報発信していけるとよいと思います。

〔中学校〕

- ・分かりやすい教育目標で3年を通して、生徒、保護者にも深く浸透していると感じる。また、月数回発行される学校だよりには行事や部活動等が紹介され、生徒の活躍の様子がよく分かる。限られた紙面にたくさんの話題が掲載されていて、読ませていただくことが楽しみでもあります。学校だよりは、新聞の折り込みや回覧板で地域住民が確認できるように工夫されており、地域へも十分発信できているし、関心を持ってもらえると思います。
- ・学校教育目標を校内各所に掲示、学校だより等でも繰り返し提示され、皆によく浸透して理解され、目標が共有されています。
- ・学校ホームページの閲覧カウントが目標には半分にも満たない状況です。目標設定を見直す必要があると考えます。

視点③ 校長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・学校の内外環境を把握・分析し、学校経営の在り方をダイナミックに修正しようと取り組んでいる。例えば、全校児童の学力向上への取組には、小規模校としての強みを活用し、弱みを改善・強化している成果が着実に出てきている。地域と連携した取組は、年々充実していることが見て取れる。学業の面でも小規模校の良さを発揮して頑張してほしい。
- ・情報交換する場として、職員会議等の会議を持たれているということで、些細なことや問題などを共有し学校全体で対応できるので、課題の早期発見につながり、課題解決につながっていると思います。今後も、学校全体で課題を共有し、的確に対応できるよう、校長先生のリーダーシップの下、体制を確立してほしいです。

- ・学校教育目標は、家庭・学校・地域からの愛情なしでは達成できません。学校だよりも書かれています。が、「あきらめない心」を育てるためにも、みんなから愛されていると感じていることが重要です。そう実感できるような学校環境にしていきたいです。そのためには、地域の大人、家庭、学校で模範が見せられるようにしていければと思います。

〔中学校〕

- ・小規模校の課題を踏まえ、教育目標に向かって、校長のリーダーシップがよく発揮されていると思います。生徒と教職員の和、学校と地域の和、保護者と教職員の和が良く、少人数だからこそだと思いました。これは、強みです。また、生徒達が今後巣立っていく際に大人数に対応できるように十分なケアをしている点も強く感じました。
- ・先生方の熱心な指導力で生徒たちの前向きな姿勢がうかがわれます。休みの日も学校に行きたいというほど、楽しい学校生活を送れています。校長のリーダーシップの下、先生方が一丸となって目標達成に取り組んでいただいているからだと思います。
- ・中学3年間は人間的に大きく成長できる時期だと思います。先生方の取組に対し、子どもたちが応えるよう家庭での子どもへの接し方が大切だと思います。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

..... 評価

小学校	平均 3.3
中学校	平均 3.4

視点① 学校は、挨拶運動の推進や道徳教育の推進、命・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・長年の縦割り活動の中で、上級生の下級生への思いやりの姿勢は根付いていると思います。校舎内は美しく、児童と話すと、穏やかで挨拶も交わしてくれる落ち着いた雰囲気があります。学校での道徳教育が子どもたちの中にしっかりと育っているからだと感じています。
- ・いじめのない学校づくりに向けて、児童会の活動や日頃の関係会議、先生方の情報共有を通じて、積極的に取り組まれており、効果が出ていると感じます。また、人権尊重を核にしていじめを許さない姿勢をつくるために繰り返し授業を行うなど工夫されていることは大変良いと思いました。
- ・児童アンケートの結果では、いじめがあるという回答が見られます。いじめは社会問題であり、命の危険にもつながるので、最も力を入れて具体的な解決策を決めていただき、早期に解決に向けて取り組んでいただきたい。

〔中学校〕

- ・授業を見ていると、一人一人の個性が尊重されている雰囲気を感じられ、うれしく思います。子どもたちを見ていると、誰にでも挨拶がしっかりできていると思います。ただ、子どもたちは挨拶を進んでしていると評価していますが、保護者の方は評価が低いように思います。
- ・登下校時に気持ちのよい挨拶をする生徒さんが多く、とても印象がよいです。学校でも

家庭でも、子どもの人権を大切にしてもらっているのではと推察できます。

- ・学級活動や生徒会活動、その他地域でのボランティア活動など、生徒が自ら持っているものを表現しようとする積極的な姿勢が素晴らしいと思いました。校外での活動が、子どもたちの成長にとってたいへんよい効果を出していることも考えると、学校の頑張りが地域の方々にも伝わり、評価していただけているのだと思います。
- ・基本的な生活習慣、家庭学習の習慣、学習に対する意欲など保護者の評価は厳しいと受け取れます。人として大切なことを身に付け、成長していくことができるような教育の充実を期待します。生徒を取り巻く社会がどんどん変化している中でこそ、人間の生き方を考える道徳教育が指導のいい場になると思うので、道徳の時間を充実させてほしいと思います。

視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身に付け、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・ボランティア活動などの「福祉」分野を、総合的な学習の時間に取り入れ、さまざまな体験をするのはとてもいいことだと思います。また、人に喜んでもらえることを実感できることは、将来必ず、適切な職業観につながると思います。また、不思議に思うことを探究していく活動も、子どもたちの将来につながっていくと思います。
- ・学校は、家庭では得ることのできない、多様な人間性、様々な価値観、常識感覚、社会のルール、人との付き合い方など、教科の学習以外に本当にたくさんの事を学べる大切な場所だと思います。ただ、「人間力を高める」ことは、家庭環境や親の力も大きく影響すると思うので、学校に全てお任せするのではなく、子育て期に親がすべき事を、各家庭がもっと考え、子どもに丁寧に関わらなければいけないと感じます。

〔中学校〕

- ・細かな課題はあるにせよ、地域との大きな軋轢もなく、生徒たちは基本的な社会規範を身に付けていると思います。生徒自らが動く、生徒から生まれた活動を大事にし、そういうことを地域に発信して地域住民の関心を増やすことができれば、これまで以上に応援していただけると信じています。
- ・ルールやマナーを守る態度が育てられ「規範意識」が高まっているせいか、学校は生徒にとって落ち着いて生活ができる状況になっているようで、安心して見守っています。
- ・自転車通学の様子を見ると、自分が加害者になるかもしれないという意識が低いように感じます。交通安全教室を実施されていますが、もっと意識を高めてほしいと感じています。

視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・ゲームが遊びの主流になっている中で、体を動かし、汗を流すことの爽快さ、活動する楽し

さをどんどん感じてほしいと思います。体力テストの結果では、全国平均よりも下であったことが残念。周囲には、自然と恵まれた環境があるので、それを生かして今後の体力の向上を望みます。

- ・早寝、早起き、朝ごはんの大切さを家庭に問いかけ続け、次に学校で何ができるかを模索しながら、子どもの成長にとって必要な活動に取り組んでいただきたいと思います。
- ・今の子どもたちの生活はゆとりをなくし、また、体を使つての遊びなど基本的な運動の機会が減少し、体力・運動能力は全般に低下しているように見受けられます。これらの課題解決への取組を積極的に進めていただきたいと思います。

〔中学校〕

- ・運動、スポーツについては、部活動以外にも地域と連携したスポーツ活動を推進していければと思っています。
- ・多くの保護者と生徒が、部活動は心身を鍛える良いものになっていると回答しており、本校での部活動は、教育活動の中でとても重要な位置を占めていることが分かります。部活動顧問の先生方の熱心な御指導を感じます。
- ・体力テストの結果が全国平均を下回っていて残念ではありますが、結果よりも取組姿勢の方が重要だと思います。スマホ、ゲームなど室内でできることが増え、体を動かす機会が減っているのも原因なのかと思います。部活動に一生懸命取り組んでいる子も多いと思います。
- ・部活動の入部率が不明、また、運動部への入部率が不明なので評価が難しいと感じています。全ての生徒が運動部に入部することは難しく、個人差もあると思います。部活動の底上げは家庭の協力と努力も必要ではないかと思っています。

3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実

..... 評価

小学校	平均 3.3
中学校	平均 3.3

視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、新学習指導要領の実施に向けて、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を大切にした取組を行うなど授業改善に学校全体で取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・グループでの活動を通じて、子ども全員の「話す」「聞く」「読む」「書く」能力の育成を大切にして授業をしていただいていると感じています。話すこと、書くことの活動をより多く取り入れ、個性を大事にした自己表現力の向上に努めてほしいです。
- ・学ぶ力向上のため、新学習指導要領を踏まえつつ、「読み解く力」を育む教育を全校的に実践されていることが、掲示内容や授業参観からうかがえました。
- ・たくさんの情報がどこからでも入ってくる時代になっていると思います。何がよくて何が悪いのかも分からずに使っている子どもたちの様子を見てみると、あふれている情報の中で正しい判断ができるよう学んでほしいと思います。
- ・学習意欲が少しでももてるような指導をしていただければと思います。タブレット、テレビ等の利用は今の時代に合っていると思います。特に学力の低い児童についての学習方法等課題

ではないか、家庭との連携が難しいこともあると思いますが、十分な支援をしてあげてほしいと思います。

- ・本離れが進む中、読み聞かせを続けておられるのは本に親しむよい機会だと思います。以前の朝の校内放送で、子どもたちが本の紹介をしていたのを聞いたことがあり、いい企画だなと思っていました。情報の入手はインターネットという時代ですが、本からの入手も大事にしてほしいと思います。

〔中学校〕

- ・授業で本の紹介を受けたり本を読むことへの興味を高めたりする指導、また、廊下に本を展示する工夫などを見させていただき、子どもたちが学ぶ意欲を高めるための取組を感じます。
- ・生徒アンケートでは、意欲的に授業に取り組んでいると答えた生徒が全体の90%にのぼるものの、教員のアンケートの評価が低いのが残念です。授業改善に取り組まれていないように見えますが、その辺りが保護者の評価にも現れてきているのではないのでしょうか。
- ・学力向上は、家庭での学習も不可欠だと思いますので、学校と家庭が協力していくことが大切です。学校オリジナルの「家庭学習の手引き」を十分活用してほしいと思います。
- ・全国学力学習状況調査の結果から、学力の面（点数）が注目されがちですが、子どもたちの家庭生活、学習態度面のアンケート調査の項目は、自主的な学びにつながる大変貴重なデータがあると思われます。そうしたデータを分析し、学びのスタイルを確立していくことが、真の学力向上につながると思います。
- ・「書く」ことの表現力については、何とかできているように思いますが、自分の意見や考えを「話す」方の表現力はできていない子どもの方が多いように思います。学ぶ子どもたちの発する声の大きさ、自分の考えの話し方、挙手の勢いなどに活気や自信が不足しているようにうかがえました。これらのパワーアップこそが、今日課題とされている「学力向上」の基盤となるのではないかと思います。

視点② 学校は、英語教育に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・確かな学力を育む一環としての英語教育の充実はこれからの国際社会においては必要と思いますが、押し付けの教育となっては、学力を育むどころか英語嫌いを助長する結果となりかねません。一人一人の興味関心を十分に引き出し、良さや可能性を生かす学習活動を進めるための工夫が大切だと思います。
- ・英語の学習では、外国人の先生の話すことを聞く機会が大切にされており、子どもたちは直感で受け取り英語に親しむとともに、相手を理解することやコミュニケーション能力の向上にもつながっています。日常生活に取り入れられるよう身近なコミュニケーションのツールとして位置付けられればと思います。
- ・各学年で生活に根ざした英語を学ぶというより使う感覚で学習に取り入れられているのでよいと思った。外国人の先生の授業が楽しくされていたり、英語のモジュール学習もされていたりして、成果が実感できる日を楽しみにしています。

〔中学校〕

- ・英語教育には力を入れられているとのこと、昨年の大学入試改革の一連の騒動においては地域格差が問題として挙がっていましたが、系統的な学習を充実させ、地方でも「話す」「聞く」力が公教育で付けられるよう頑張ってもらいたい。
- ・英語教育に力を入れておられ、英語検定の結果にも成果が出ていると感じます。
- ・小中の連携もされていると聞いており、地道に継続していかれることを望みます。

視点③ 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組み、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

〔小学校〕

- ・特別支援学級の児童を、交流学級のクラスに取り込もうとする先生方の御指導に御苦労と工夫を感じます。このような先生方の努力は、特別支援教育に対する理解を広げるために不可欠だと思います。
- ・様々な個性や特性を持った子どもに対し、支援学級の担任の先生だけでなく、サポーターの先生や様々な先生が努力し対応できるよう頑張っておられることが分かりました。また、子どもの様子から信頼関係に支えられた指導・支援がされていると感じました。一人一人の子どもを比べるのではなく、個を大事にし、成長を見守りたいです。
- ・特別支援が必要な子ども、集団の中で足並みそろえて学ぶことが難しい子どもが多くいるようで、先生方は本当に大変だろうと思います。一人一人の個性や発達のパースに合わせた指導、新しい学びのスタイルに変えていく必要があると感じます。今後も、特別支援教育に特に力を入れてほしいと思います。未来ある子どものため、最大限の努力をしていただきたいと思います。

〔中学校〕

- ・特別支援が必要な子ども、集団の中で足並みそろえて学ぶことが難しい子どもが多くいるようで、先生方は本当に大変だろうと思います。一人一人の個性や発達のパースに合わせた指導、新しい学びのスタイルに変えていく必要があると感じます。子どもの力を引き伸ばす教育的配慮をよろしくお願いします。
- ・特別支援学級の子どもさんと接する機会が何回かありましたが、学校生活の様子も落ち着いていて、交流学級の子どもとも一緒に行動できていて、十分な指導をいただいていることが分かり、安心しました。子ども一人一人の個性を生かしつつ、一人一人に確かな学力を育む教育の充実を求めます。
- ・特別支援教育において、少ない教職員数にもかかわらず、多くの教職員が授業を中心としていろいろな形で生徒の指導に関わっておられる体制を感じています。素晴らしいことだと思います。

4 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造・・・評価

小学校	平均 3.5
中学校	平均 3.4

視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的取り組み、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりを推進している。

〔小学校〕

- ・教育界は様々な形で規制緩和が進められ、個性ある生き生きとした学校づくりの大きな追い風となっています。学校は子どもたちの学力、人間的成長に対して責任をもつと同時に、それを実現するための主体的で開かれた学校を目指すべきと考えます。その意味からも、働き方改革の視点からも、今年度の実績を踏まえ、更に発展してほしいと願っています。
- ・子どもたちが地域を探訪する行事を、学校運営協議会として、コミュニティ・スクール事業の活動に組み入れたのは良かったと思います。一方で、保護者の参加や協力が少ないこと、参加される方の顔ぶれが同じであることが気になります。保護者を巻き込める方法を探り、工夫したいと思います。
- ・地域の自然や人材をよく取り入れてくださっていると思います。今後も、地域のみんなで児童を見守り育てていこうという気運が高まっていくことを願います。
- ・地域に根ざした環境教育を継承し体験型学習の充実に努められていると感じます。こうした学習を通して、子どもたちが、主体的に活動し、自信をもって自らの考えや主張を発言、発信できる力の醸成を期待します。

〔中学校〕

- ・地元の方のふれあいを通して社会のルールを少しずつではあるが指導していただいております。心の成長をしているのではないかと。先生方もがんばっておられると思います。生徒たちもしっかりと前進していているのではないのでしょうか。
- ・和太鼓や書き初め会、また、地域の方を講師に迎えた戦争体験聞き語りなどとても良いことです。今後とも続けていただきたい。少しずつ地域の学校として認識されるように活動内容を考えていく必要がある。
- ・先生の力になりたいと思っていますが、いまいち何をすればいいのやら分からないことも多いです。コーディネーターとして協力できる範囲で活動しています。

視点② 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。

〔小学校〕

- ・少子化、高齢化が急速に進む中、スクールガードの方々も高齢化している現状があります。国道は、トラックなど大型車両の交通量が多く、安全・安心な通学環境の確保をお願いします。
- ・警察と市役所で重複した「地域住民による支援」が整理されるよう期待します。学校からも負担なく共同できるよう、スリム化に理解と協力をいただきたいです。

〔中学校〕

- ・災害時の対処法を地域とともに考えられるとよいと思います。

- ・地域の方に来ていただいてプランターを植えていただき、地域できれいな花を咲かせてくれています。今年は準備も大変なことから運営協議会委員と生徒さんと一緒に土づくりをお手伝いしました。どこまでしてよいのか迷うところもあるので積極的に声掛けをお願いします。

視点③ 学校は、学校支援地域本部事業、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用し、地域コーディネーターを中心に学校を支援する体制づくりに努め、積極的に地域に働き掛け、創意工夫があり実りのある教育フォーラムを開催するなどしている。

〔小学校〕

- ・学校支援地域本部事業は年間通して様々な活動をしていると思いますが、学校運営協議会は、年に数回の会議では、運営にまで参画するのは難しいと思います。学校評価も限られた活動の中での評価になり、とても難しく思います。学校運営協議会委員として、もう少し学校に関わる機会があってよいように思います。
- ・地域ボランティアの方も多く、協力的な土地柄もあるので、今後継続してつながれる努力をしていくことが重要である。しかし、地域や学校が充実しすぎて、保護者が置き去りになってしまわないよう常に働き掛けることも必要なのではとも思う。
- ・地域ボランティアの方々の活動が、保護者にあまり知られていないように思います。学校HPや学校だよりで紹介やアナウンスを積極的にしてはどうでしょうか。

〔中学校〕

- ・校長先生の人柄と先生方の取組のおかげで、学校を支援しようとの地域の体制が少しずつ整ってきているように思います。丁寧な広報の力もあると思います。これからも地域の働き掛けを積極的をお願いします。
- ・地域の事業に子どもたちが積極的に参加し、ボランティア活動を行っていただいて助かっています。来年度からは、学校が地域の方をお願いしたいことを発信され、お願いされるのもいいかと思います。
- ・コミュニティ・スクールの構築のため、学校運営協議会を組織し、家庭・学校・地域が連携して社会全体で子どもを育てる地域基盤の形成を図っていったらよいと思います。そのために、現状から問題や課題を掘り起こし、目標を定められたらいいのではないのでしょうか。コミュニティ・スクールはこれからももっと活用されていく、そして必要とされるのではないのでしょうか。
- ・教育フォーラムはもっと多くの地域の方に参加していただくことが今後の課題です。

【図書館内部評価】

この内部評価は、米原市図書館サービス基本計画に基づき図書館運営を行った実績について、その成果と課題を見出し、サービスの向上に努めるため、図書館協議会で評価をしていただいたものです。

1 市民の多様な資料要求に応える図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(1) 市民一人当たり図書館貸出冊数 (当該年度の年間個人貸出冊数÷米原市の人口)	11.5冊/年	10.9冊/年	10.5冊/年	10.1冊/年	9.7冊/年	12冊/年
(2) 蔵書更新率 (更新(受入+除籍)された冊数÷蔵書冊数×100)	3.9%	3.4%	4.6%	8.3%	3.2%	4.7%
(3) レファレンス満足度 (レファレンスサービスについてどう思いますか「満足している」÷(「合計」-「尋ねたことがない」)×100)	40.5%	37.0%	42.5%	39.1%	35.0%	50.0%
(4) 市民の実利用者率 (自治体内の有効登録者数÷米原市の人口×100)	16.1%	15.4%	15.2%	15.2%	14.7%	17.3%
(5) 受入雑誌タイトル	216誌	225誌	232誌	200誌	204誌	220誌
(6) 県内外図書館との相互貸借件数(借受数)	1,547冊	1,687冊	1,531冊	1,363冊	1,254冊	1,600冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	D	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	・運営形態を見直し開館時間が短縮されたことで、市民一人当たり貸出冊数、実利用者率ともに前年度よりも低い結果となりましたが、個人貸出冊数は大幅に減少することなく、市民の多様な資料要求に応えることができました。 ・雑誌スポンサー制度により63者・83誌の雑誌を支援していただいたことや、寄贈していただいた雑誌が増えたことで、受入雑誌タイトル数が増加しました。 ・選書会議を年間49回開催し、両図書館で魅力ある蔵書の構築に努めました。 ・閉架書庫を整理し、収蔵スペースを確保することができました。
----	--

課題	・レファレンス満足度を向上できるように内部研修等を実施し、引き続き誠実なカウンター対応・レファレンス対応に力を入れる必要があります。 ・計画的に資料の整理と除籍を行い、収蔵スペースを確保するとともに、蔵書更新率を向上していく必要があります。 ・米原市立図書館に所蔵していない資料を相互貸借で提供できるリクエスト制度の更なる周知が課題です。
----	---

2 市民の生活に密着し、地域の課題解決に役立つ図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(7) 郷土資料・行政資料の受入れ件数	206冊	413冊	386冊	343冊	285冊	250冊
(8) まちづくりに関する資料の貸出冊数	— 冊	530冊	423冊	230冊	169冊	500冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	・郷土資料や行政資料の受入れ件数は昨年度より減少しましたが、目標値を上回ることができました。 ・両図書館において、地域に関する新聞記事を収集・保存しました。 ・蚩や埴輪など、郷土に関する資料を積極的に収集しました。 ・歴史文化財保護課が発行したパンフレットを収集するなど、地域の歴史や文化に関する資料を収集しました。
----	---

課題	・郷土資料・行政資料を受入れて保存することは公共図書館の大切な役割のため、引き続き多くの資料を受入れできるよう積極的な収集が必要です。 ・市が発行した地域に関する資料を両館で収集・保存し、また学校と連携し地域学習の際に役立つよう発信していく必要があります。 ・まちづくりに関する資料は、出版点数の減少とともに受入冊数も減少しているため、地域の課題や市民の資料要求を把握し、新刊の受入やPRに努める必要があります。
----	--

3 だれもが進んで利用できる安心・安全・便利な図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(9) インターネットからの予約件数	12,207件	13,679件	12,864件	13,207件	13,072件	13,000件
(10) 大活字本の貸出冊数	1,356冊	1,227冊	1,282冊	1,243冊	1,611冊	2,500冊
(11) 高齢者福祉施設への貸出冊数	1,624冊	1,780冊	1,074冊	868冊	654冊	3,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	・インターネットからの予約件数は、前年度より減少しましたが目標を超える数値になりました。更なるPRを行うとともに、今後も新刊情報を毎週更新するなど新鮮な情報が掲載されたウェブサイトの維持に努めます。 ・大活字本105冊や点字絵本・LLブックなど29冊を購入し、蔵書を更新しました。 ・週3回程度の図書館間物流を維持し、伊吹薬草の里文化センター、米原公民館とも連携し、市内全域サービスに努めました。 ・コロナ禍に細心の注意を払いながら、県内の図書館で休館が続く中で情報を収集しながら、資料や机などの消毒、インターネット・電話での図書の予約や返却ポストの24時間利用および電話での資料の貸出延長を可能にするなどの対応を行いました。
----	--

課題	・高齢者福祉施設や地域サロンへの団体貸出については、関係団体と連携を進め力を入れて取り組み、図書館に来館できない方へのサービスを行っていく必要があります。また、協力していただけるボランティアについても積極的なPRが必要です。 ・日本語を母語としない方へのサービスについても、関係団体との連携を進め、検討する必要があります。 ・市内全域サービスについて、更なる周知を行う必要があります。
----	--

4 子どもたちの読書活動を見守り、支援する図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(12) 出前講座実施回数	18回	18回	18回	19回	13回	20回
(13) 児童書個人貸出冊数	170,031冊	166,459冊	163,707冊	164,108冊	158,913冊	171,000冊
(14) 児童書団体貸出冊数	14,382冊	12,206冊	17,172冊	14,928冊	13,100冊	16,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	・令和元年度も新小学1年生へ図書館利用カードを配布することができました。希望する児童に利用カードを発行することで、利用カード所持率が上がり、夏休み以降の図書館利用促進につなげることができました。 ・出前講座は、ブックトークで小学校へ4回出かけ、施設見学を9回、職場体験を6校受入れることができました。 ・夏休み読書リレー、親子絵本づくり教室、図書館員体験、ビブリオトークなど、子どもたちの読書意欲を高める取組を行いました。 ・貸出冊数は減少していますが、ボランティア・学校司書との協力により子どもの読書活動支援を行うことができました。 ・学校図書館を整備するため、小学校2校の学校図書館リニューアルを支援しました。
----	---

課題	・子ども読書活動推進計画（第3次計画）を策定し、子どもたちの発達段階や興味関心に応じた蔵書の充実や読書意欲を高める取組を行っていく必要があります。 ・学校司書の配置が増え、学校図書館の整備が進んだことで、出前講座や団体貸出数が減少しているとも考えられるため、今後は、図書館の児童サービスの更なる充実と学校図書館との連携に力を入れる必要があります。 ・また、乳幼児期からの読書習慣の形成を図るため、家族みんなで本に親しめるような取組や呼び掛けを行うことが課題です。
----	---

5 地域の人たちとの協力・協働でめざす、交流の場となる図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(15) ボランティアと活動した回数	79回	78回	84回	80回	66回	90回
(16) 図書館講座の開催回数	5回	6回	5回	6回	1回	6回

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	・おはなし会、図書の修理、ブックスタート、イベント準備等を、ボランティアの皆様にご協力いただき実施することができました。 ・計画どおりボランティア交流会を2回開催し、情報や意見交換等ができました。 ・エアコンの増設など、適切な施設メンテナンスを行い、読書環境の改善に努めました。
----	---

課題	・地域の人たちの交流の場となれるよう、利用者の声を大切に、工夫を重ね、市民との連携・協力により今後も継続して市民力のある図書館運営に努めていく必要があります。 ・ボランティアの高齢化や人員不足は、今後の大きな課題です。若い世代にも参加してもらえるようにPRしていく必要があります。 ・図書館講座については、地域の人に関心のある事柄や講師になっていただける人の情報を収集し、検討する必要があります。
----	--

6 専門性を持った職員によるサービスが保障される図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(17) 職員の研修等参加回数	20回	9回	18回	26回	34回	20回
(18) 職員対応満足度	82.5%	78.7%	77.5%	79.9%	77.8%	90%

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	・滋賀県立図書館で開催された、「専門分野実務研修」「専門講座」「ステップアップ研修」などの司書専門講座にのべ11回参加し、復命研修を行うことでその内容を全職員で共有することができました。 ・おはなしグループとPRグループに分かれて実践的な研修を年間を通じて実施し、ナツヨミ冊子などの成果物を作成することができました。
----	---

課題	・職員対応満足度を上げるため、引き続き接遇の研修を実施するなど、組織としてのスキルアップに取り組む必要があります。 ・職員が外部研修等に参加できるような体制を維持する必要があります。
----	--

7 山東・近江2館の個性を生かす図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	実績 (H30)	実績 (R1)	目標 (R3)
(19) 市民が1年間に読んだ本の冊数	20,4冊	—	—	—	15,6冊	24,0冊
(20) テーマ特集展示回数	330テーマ	357テーマ	346テーマ	396テーマ	401テーマ	330テーマ
(21) 若年層の貸出冊数	109,899冊	100,060冊	87,732冊	85,219冊	80,073冊	120,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	・山東・近江2館で季節感や話題性など読書提案をするテーマ特集に取り組むことができました。 ・一杯のコーヒーに似合う本を紹介した「珈琲と本」の冊子を発行し、配布することができました。 ・ルッチプラザでのコンサートや、はにわ館展示と連動した特集を組み、本の紹介を行いました。 ・若年層への取組として、新成人におすすめの本や図書館の利用案内を掲載したリーフレット『お祝い』を発行し、配布することができました。 ・東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしてニュージーランドを紹介する取組を行い、多くの利用者にニュージーランドについて知っていただくことができました。
----	---

課題	・若年層（19歳～39歳）に図書館や読書への興味を持ってもらえるような情報発信や図書館でのイベント等を検討するほか、利用促進につながるよう資料や情報の収集に努めることが課題です。
----	---

米原市教育振興基本計画（目標指標）

基本目標 1 心豊かでたくましく生きる力を育む教育を実現します

施 策	指 標 名	計画策定時現状値 (平成 27 年度)	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 3 年度)
1 就学前の教育・保育の充実	待機児童発生数	0 人	0 人	0 人	0 人
2 確かな学力の向上	総合学力調査「読む能力」の正答率	小学校：68.7% 中学校：63.8%	小学校：42.8% 中学校：70.5%	小学校：78.9% 中学校：70.9%	小学校：70% 中学校：65%
	図書館の児童書貸出冊数	170,031 冊	163,707 冊	158,913 冊	171,000 冊
3 豊かな心の育成	長期（年間 30 日以上）欠席率 （小学校・中学校）	小学校：0.58% 中学校：2.57%	小学校：0.49% 中学校：2.19%	小学校：0.87% 中学校：2.77%	小学校：0.5% 中学校：2.4%
	学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合	小学校：96.7% 中学校：93.2%	小学校：95.5% 中学校：94.1%	小学校：98.1% 中学校：96.4%	小学校：100% 中学校：100%
4 健やかな体の育成	子ども（小学 5 年生）の体力・運動能力テストの体力合計点	男子：51.56 女子：53.82	男子：52.68 女子：52.70	男子：52.84 女子：54.07	全国平均を上回る
	体力・運動能力調査「持久走」の県平均を上回った学年数（中学校）	全学年	男子 4 学年 女子 6 学年	男子 4 学年 女子 6 学年	全学年
	体力・運動能力調査「50m走」の県平均を上回った学年数（小学校）	男子：2 学年 女子：4 学年	男子：2 学年 女子：3 学年	男子：1 学年 女子：4 学年	男子：4 学年 女子：4 学年
5 地域の良さを生かした特色ある教育の推進	「ふるさと 3 事業」実施校園率	76%	78%	76.3%	100%
	学校給食に地場産物を使用する割合（食材数ベース）	34.4%	42.0%	39.0 %	35%
	総合学力調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	小学校：42.5% 中学校：34.8%	小学校：36.3% 中学校：43.1%	小学校：55.4% 中学校：43.8%	小学校：45% 中学校：35%

基本目標 2 学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高めます

施 策	指 標 名	計画策定時現状値 (平成 27 年度)	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 3 年度)
1 子育て支援と家庭の教育力の向上	家庭児童相談対応ケース数	356 件	233 件	262 件 (100%)	対応率 100%
	子育てをテーマにした講演会の参加者数	265 人	250 人	205 人	300 人
2 子どもの育ちを支えるコミュニティづくり	学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	小学校：85.3% 中学校：60.4%	小学校：80.7% 中学校：59.5%	小学校：86.5% 中学校：65.5%	小学校：88% 中学校：65%
	冒険遊び場の設置数	2 か所	4 か所	2 か所	5 か所

施 策	指 標 名	計画策定時現状値 (平成 27 年度)	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 3 年度)
3 青少年の健全育成	子ども会事業への参加数	493 人	429 人	371 人	500 人
	放課後児童クラブの設置数	9 か所	9 か所	9 か所	10 か所
	あいさつ運動実施率	100%	100%	100%	100%
	少年補導委員街頭補導活動回数	861 回	1,256 回	1,108 回	900 回
4 学校支援活動や地域活動の担い手の確保	学校地域支援本部事業設置率	33%	100%	100%	100%
	学校地域支援本部登録ボランティア数	330 人	415 人	338 人	500 人
	まなびサポーター登録者数	135 人	216 人	164 人	145 人
5 地域に開かれた学校園づくり	園運営委員・学校評議員活動平均回数	2 回	2.1 回	2 回(園)	3 回

基本目標3 一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくります

施 策	指 標 名	計画策定時現状値 (平成 27 年度)	現状値 (平成 29 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 3 年度)
1 多様なニーズに対応した教育の推進	児童発達支援事業 親子通園開設回数	355 回	337 回	486 回	370 回
	子どもケアサポーター派遣人数	42 人	41 人	43 人	50 人
2 教育相談・教育支援の充実と学校支援体制の構築	不登校児童生徒数	小学校：10 人 中学校：27 人	小学校：10 人 中学校：24 人	小学校：18 人 中学校：28 人	2 割以上削減
	スクールソーシャルワーカー活用実績	8 校 (拠点校を除く)	9 校	13 校	14 校
	学力・学習状況調査「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合	小学校：77.0% 中学校：82.1%	小学校：84.7% 中学校：87.6%	小学校：91.2% 中学校：85.0%	小学校：88% 中学校：93%
3 安全・安心な教育環境の整備	スクールガード登録者数	870 人	902 人	851 人	1,000 人
	「子ども 110 番のおうち」、「子ども 110 番のくるま」設置数	おうち：326 か所 くるま：103 台	おうち：301 か所 くるま：85 台	おうち：329 か所 くるま：89 台	おうち：350 か所 くるま：110 台
4 適切な教育環境の整備	米原市市民意識調査「教育内容、施設の充実」の満足度	75.6%	81.5%	84.4%	78%
5 教職員の資質や指導力の向上	教育センター開講講座・研修会延べ受講人数	979 人	1,011 人	1,003 人	1,000 人

※総合学力調査および学力・学習状況調査の令和元年度現状値については、総合学力調査が縮小傾向にあることから、全国調査である学力・学習状況調査に統一しています。

基本目標4 生涯にわたって豊かに学び合い、いきいきと活動できる環境をつくります

施策	指標名	計画策定時現状値 (平成27年度)	現状値 (平成29年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和3年度)
1 生涯学習機会の充実	米原市市民意識調査「生涯学習の推進」の満足度	82.5%	83.7%	85.0%	85%
	公民館・生涯学習センター利用者数	166,075人	167,446人	146,225人	166,500人
2 人権文化の確立	地域人権リーダー研修会の参加者数	241人	264人	263人	250人
	ハートフル・フォーラムの実施率	80.4%	79.4%	76.6%	85%以上
3 地域で活躍する人材の育成	まなびサポーター登録者数(再掲)	135人	216人	164人	145人
	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	269回	268回	236回	300回
4 図書館を活用した読書活動の推進	市民一人当たり図書館貸出冊数	11.5冊	10.5冊	9.7冊	12冊
5 生涯スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数(延べ人数)	1,085人	1,142人	1,207人	1,500人
	体育協会加盟人数	3,000人	2,360人	2,052人	3,100人
6 生涯学習環境やスポーツ環境の整備	米原市市民意識調査「スポーツの推進」の満足度	83% (H25)	85.2%	85.9%	85%

基本目標5 米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます

施策	指標名	計画策定時現状値 (平成27年度)	現状値 (平成29年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和3年度)
1 自然環境保全の意識向上	給食センターにおける収穫体験実施校数	0校	3校	3校	3校
	いきいき健康ウォークの参加者数	153人	154人	128人	300人
2 市民の文化・芸術活動の促進	米原市芸術展覧会への市民作品数	195点	165点	83点	220点
	米原市文化協会事業への参加団体数(累計)	159団体	131団体	123団体	165団体
	文化協会員数	1,219人	983人	896人	1,500人
3 歴史・文化財の保存と活用	文化財補助事業申請件数	25件	23件	28件	25件
	米原市市民意識調査「歴史・文化の継承と活用」の満足度	86.3%	84.4%	86.9%	88%
4 歴史・文化に親しむ機会の充実	歴史講座受講者数	51人	68人	72人	70人
	歴史イベント開催回数	11回	14回	15回	15回

